

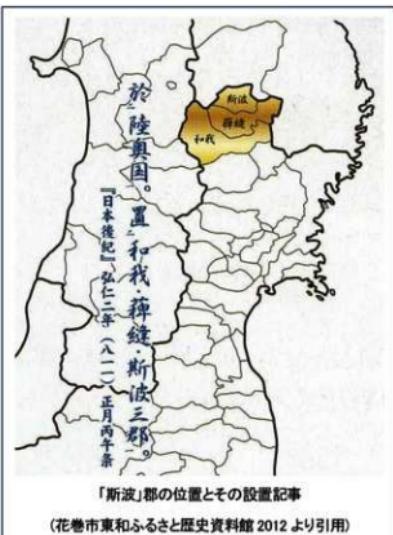
古代「しわ斯波(志波)」郡北部の土器群変遷(その1)

—季石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料を中心に—

盛岡市遺跡の学び館 津嶋 知弘

1.はじめに

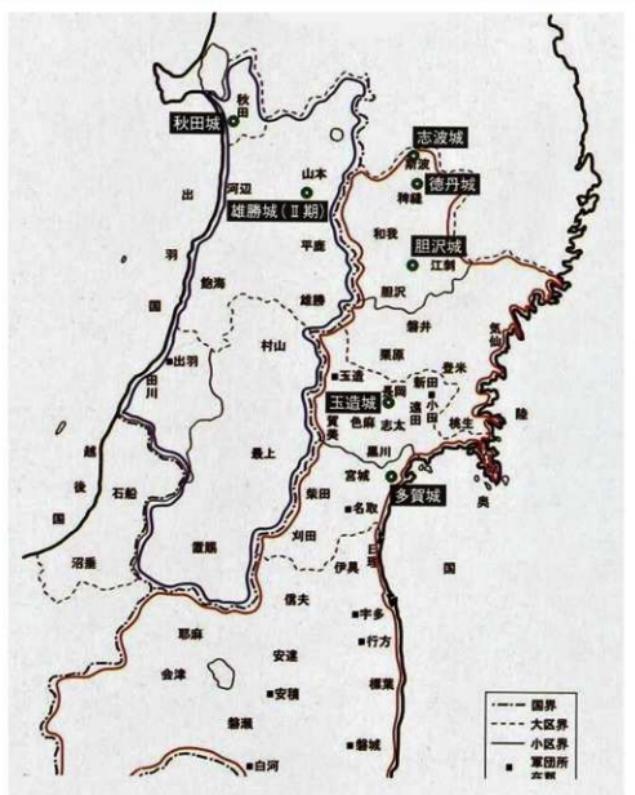
盛岡市は、岩手県北部、北上盆地の北端に位置し、大河「北上川」が南北に流れ、その支流である篠川・中津川・季石川が東西から合流している。近世においては、その河川合流点に總石垣の「盛岡城」が戦国大名「南部氏」により築かれ、その城下町を中心には現代へつながる中心市街地が形成されてきた。しかし、それ以前、奈良・平安時代を中心とする古代においては、本来北上川の本流と認識されていたであろう川幅の広い季石川の南岸に広がる沖積段丘の微高地に多くの集落が営まれていた。当該地域には延暦22年(803)に古代城柵「志波城」が畿内の律令政府により造営され、また『日本後紀』の弘仁2年(811)正月条に見られる「斯波」郡の北部が、当該地域に該当すると考えられる(南部は弘仁3年(812)造営の「徳丹城」を中心とした矢巾町・紫波町域と推定)。盛岡市域の古代遺跡出土土器群を概観すると、当該地域の北方に隣接する滝沢台地及び中津川流域(後の「岩手」郡南部)出土土器群の様相が、当該地域出土土器群の様相とは異なっており、両者は区別して考える必要がある。本稿では、季石川南岸地域で盛岡市教育委員会が発掘調査を行った古代遺跡出土土器群を対象に、その変遷を検討したものである。なお、当該地域では岩手県埋蔵文化財センターも、盛南開発区画整理事業や国道46号線盛岡西バイパス建設、県道盛岡和賀線整備に伴い市教委を大きく上回る数多くの古代集落の発掘調査を行っており、全体像を把握するためにはそれら資料も含めた検討が不可欠あるが、膨大な資料数を実見することができないため、それらは機会を改めることとし、2013年6月時点と考えられる論点の整理と編年試案として記述を進める。なお、志波城跡と周辺の集落遺跡の概要については、拙稿(津嶋2004)も参照されたい。



2.文献にみえる「斯波(志波)」

当該地域出土土器群の変遷を捉えようとする時、その複雑な歴史的背景・経過を十分に認識する必要があると考えている。大きな流れとしては、延暦22年(803)の志波城造営以前は、当該地域は律令政府の直接統治外であり、いわゆる「蝦夷(エミシ)」の時代であった。宝亀5年(774)に宮城県北の海道蝦夷が桃生城を攻撃したことを発端とする、律令政府と蝦夷集団との断続的な武力衝突は、いわゆる「38年戦争」

と呼ばれており、国府多賀城が焼き討ちにあう（「伊治公皆麻呂の乱」）。一方、天応元年（781）に即位した桓武天皇は律令政府軍を岩手県南部の胆沢地域へと進攻させる。そのような中で、『続日本紀』宝亀7年（776）5月条に「出羽国志波村」の「賊」（＝武装集団）が集結して「出羽国軍」と戦い、これを破ったとの記事、また宝亀8年（777）12月条に「志波村」の「賊」が集結して「出羽国軍」と戦い、これを破ったとの記事が見られる。両記事に出てくる「志波村」とは、のちに建置される陸奥国「斯波」郡域を指すものと解釈して問題はないかと思う。しかし当時、律令政府は「志波村」を「出羽国」域と認識し（いわゆる「北狄」）、武力進攻した陸奥国「胆沢」の先に連続する地域（いわゆる「東夷」との認識はなかったようである。これは、「胆沢」と「志波」の間の陸路の険しさによる隔絶感を示していると考えられるが、ともあれ、「志波エミシ」は律令政府軍を退けるほどの力を持つ大きな蝦夷勢力であったことは確かであった。しか



9世紀前葉の陸奥国と出羽国
(花巻市東和ふるさと歴史資料館 2012 より引用)

しこの先、志波エミシは、律令政府軍と戦闘を続ける胆沢エミシとは、別の道を歩むこととなる。延暦 11 年(792)、「斯波村夷胆沢公阿奴志巳」(しわむらのえみし いさわのきみ アヌシキ) らは律令政府への帰属を願い出ており(『類聚国史』巻百九十)，それを叶えるかのように、胆沢地方での戦いが終結し胆沢城が造営されてから、わずか 1 年で約 54 km 北方の志波城が造営されるまでの間、戦闘や蝦夷移配の記録は残っていない。つまり、9 世紀初頭段階で志波エミシが勢力を温存したまま、律令政府はその権威を誇示するため最前線として大規模・壯麗な志波城を造営したのである。これは、在地蝦夷集落の土器群の変遷を考える上で非常に重要な背景であり、「志波城=律令政府(陸奥国府)からの直接的な影響力が限定的であった(=志波エミシが 8 世紀代からの伝統的な文化や伝統を保持し続けた)」という仮説を導くことができる。

3. 暈年代と志波城と十和田 a 火山灰

当該地域の土器群変遷を検討するにあたって、暈年代の手懸りが 2 つある。1 つは「志波城跡出土土器群」であり、もう 1 つは「十和田 a 火山灰」である。

(1) 志波城跡出土土器群

先述したとおり、志波城の造営年は『日本紀略』によると延暦 22 年(803)であり、廃絶年は『日本後紀』によると弘仁 3 年(812)と考えられる(志波城の移転先となる徳丹城造営も弘仁 3 年)。発掘調査の成果によれば、この 10 年の間に、政庁正殿の改修、東西門・北門の建て替え、官衙建物の建て替えが行われているほか、城内堅穴建物(兵舎)の重複(=建て替え)が確認されている。また、文献史学の研究成果によると、大同 3 年(808)に鎮官が国司と別任され胆沢城鎮守府が成立し、志波城の城司である鎮官の権限が拡大(=鎮守副将軍の駐留)されている。また、德政相論後の大同元年(806)年頃にはすでに、坂東方面徵發の他国(東国)鎮兵から陸奥国南部徵發の当国鎮兵へ転換していると考えられている。

これまで志波城跡出土土器群は、9 世紀初頭(前葉前半)の標式的土器群と評価されてきたが、遺跡の性格は律令政府(=「公」)が造営・運営した「城柵(行政府+軍事駐屯地)」であり、その土器群の組成が周辺一般集落(=「民」)にも普遍的に存在していたと仮定することは、志波エミシが勢力を温存していた当時の状況を考えると、合理的ではないと思われる。非ロクロ丸底土器器坏を生産・使用していたエミシ達が、城柵造営を期に積極的に(あるいは強制的に)それらを放棄してロクロ土器器坏を生産(または供給され)・使用する合理的な理由がない。

以上のことと踏まえた上で、志波城跡出土土器群を城内の地区ごとに性格や年代を分けて検討することにより、その実態を明確にしたい。想定される城内各地区的年代とその性格は、下記のとおりである。



志波城政庁正殿復元コンピュータ・グラフィクス

(「志波城古代公園官衙展示室」映像から引用)

1 政府周囲「造志波城所」関連施設(工房)城 一 堅穴建物(803 年頃)

[「官(半民)」的性格、律令政府中央技術者・東国鎮兵(十俘囚兵か)が関与]

- 2 **政府(区画施設・掘立柱建物)城** 一 築地溝(803~811年), 建物柱抜取穴(812年頃)
〔「官」的性格, 律令政府中央官人が関与〕
- 3 **城内工房城** 一 堅穴建物(803~811年)
〔「官(半民)」的性格, 律令政府中央技術者・在地技術者が関与〕
- 4 **外郭兵舍城** 一 堅穴建物(803~811年)
〔「官(半民)」的性格, 初期は東国鎮兵, 後に陸奥国南部鎮兵(+俘囚兵か)が関与〕

上記の1に該当するのが、政府周囲や郭内北部で確認されている非ロクロ土器器坏や球胴甕といった8世紀代に特徴的な土器が出土している堅穴建物である。従来これらは「志波城造営以前のエミシの集落の一部」と解釈されてきたものであるが、その分布や位置を見ると、大型住居と小型住居のセットという8世紀代集落に特徴的なあり方をせず、散発的に分布していることから、志波城造営期、特に『日本紀略』にみられる「造志波城所」(=志波城造営官庁)関連遺構と考えるのが合理的と思われる。

(2)十和田 a 火山灰

盛岡周辺の古代遺跡を発掘調査すると、遺構の埋土に灰白色～白色の粉状バミスが混じることかよくあり、科学分析を行うと延喜15年(915)に大噴火したことが文献でわかる十和田火山噴火(十和田湖カルデラ)の降下火山灰であるとの結果が出てくる。これを「十和田 a 火山灰(To-a)」という。

埋土の状況からすると、降下火山灰の一次堆積ではなく、風雨により窪地へ二次堆積したものではあるが、大きく年代がかけ離れることはないと考えられ、灰白色火山灰が混入する層の暦年代(915年+a)が特定できることになり、床面や底面から堆積層までの深さにより遺構の構築年代の想定が可能となる。

4. 集落の性格

先に志波城跡出土土器群について触れた際にも述べたとおり、同年代に使用された土器群であっても、遺跡の性格によりその組成が異なる可能性を考慮する必要がある。集落遺跡についても、遺構や遺物の出土状況から、すべてがいわゆる「一般集落」であり普遍的な土器組成を持っている、というわけではない。当該地域で想定される集落の性格区分は下記のとおりである。

a 在地蝦夷系一般集落 [7~11世紀代]

- ・文献に見られる8世紀「志波村」及びそれ以前から続くと考えられる在地蝦夷勢力の集落。
- ・太田地区の台太郎遺跡が7世紀代から11世紀代まで連続して集落が営まれるほか、各地区にさまざまな時間幅をもつ集落が分布する。

b 律令政府系計画集落 [9世紀前葉]

- ・9世紀初頭の「志波城」設置の伴い、律令政府側が計画的に配置したと考えられる集落。
- ・太田地区的館遺跡からは官衙的器種(須恵器)や多量の鉄鏃が出土し、城柵との関連性が高い。

c 在地蝦夷系特殊集落 [10世紀代]

- ・10世紀代から始まる、新興在地有力者の拠点的集落。
- ・鎮守府胆沢城広域統治の末端的役割が推定される(「斯波連」またはその配下の有力者)。
- ・太田地区的林崎遺跡・大宮北遺跡では大型掘立柱建物・大溝などが検出され、祭祀関連土器が出土。

5. 各年代の土器群

次に、各年代の土器群について記述をすすめることとするが、いくつかの前提を明示する。対象とする土器群は、堅穴建物跡等の遺構から一括出土した土器群を単位としており、型式学的な資料操作は行っていない。つまり廃棄時の消費地組成をそのまま単位としている。土器の種別は、以下のとおりとしている。

【坏類（高台付、塊、鉢を含む）】

- 土師器坏A：非クロ整形、酸化炎焼成、内面または内外面にミガキ調整+黒色処理
 - 土師器坏B：クロ整形、酸化炎焼成、内面または内外面にミガキ調整+黒色処理
(いわゆる「ロクロ内黒土師器坏」)
 - 須恵器坏：ロクロ整形、還元炎焼成
 - あかやき土器坏：ロクロ整形、酸化炎焼成 (いわゆる「ロクロ土師器坏」・「須恵系土器坏」)
- ### 【甕類（壺、長頸瓶を含む）】
- 土師器甕：非クロ整形、酸化炎焼成
 - 須恵器甕：ロクロ整形、還元炎焼成
 - あかやき土器甕：ロクロ整形、酸化炎焼成 (いわゆる「ロクロ土師器甕」・「須恵系土器甕」)

以下、各層年代に相当すると考えられる土器群を列記し、その組成・特徴を記述する。別紙の編年表も参照されたい。なお、7・8世紀の土器群は、並行すると考えられる宮城県域の土器型式名を併記した。また、従来の「堅穴住居跡」の遺構名称は、新版の『発掘調査のてびき』(文化庁文化財部記念物課 2010) に従い「堅穴建物跡」に統一している。

■7世紀前半(栗園式期前半相当)

在地蝦夷系一般集落

竹鼻遺跡第11次調査RA027堅穴建物跡出土土器(盛岡市教委2000)〔第1図〕

組成(特徴)：土師器坏A(口縁部外反・体部有段・丸底),
土師器甕(口縁部外反・長胴)

■7世紀後半(栗園式期後半相当)

在地蝦夷系一般集落

台太郎遺跡第25次調査RA345堅穴建物跡出土土器(盛岡市教委編2010)〔第2図〕

組成(特徴)：土師器坏A(口縁部外傾・体部有段・丸底),
土師器甕(口縁部外反・長胴・球胴)

■8世紀前葉(国分寺下層式期前半相当)

在地蝦夷系一般集落

台太郎遺跡第27次調査RA490堅穴建物跡出土土器(盛岡市教委編2010)〔第3図〕

組成(特徴)：土師器坏A(口縁部外傾・体部有段・丸底),
土師器甕(口縁部外反・長胴・球胴)

■8世紀中葉(国分寺下層式期後半相当)

在地蝦夷系一般集落

台太郎遺跡第 55 次調査 RA613 壓穴建物出土土器 (盛岡市教委 2005) [第 4 図]

西鹿渡遺跡第 20・21 次調査 RA040 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 2008) [第 5 図]

組成(特徴)：土師器壺 A (口縁部やや内湾・体部有段・丸底),

土師器甕(口縁部外反, 長胴・球胴)

■8世紀後葉～9世紀前葉

在地蝦夷系一般集落

台太郎遺跡第 25 次調査 RA381・373 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委編 2010) [第 6 図]

台太郎遺跡第 27 次調査 RA491 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委編 2010) [第 7 図]

台太郎遺跡第 27 次調査 RA492 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委編 2010) [第 8 図]

台太郎遺跡第 41 次調査 RA542 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 2002) [第 8 図]

台太郎遺跡第 46 次調査 RA578 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委編 2012) [第 9 図]

百目木遺跡第 14 次調査 RA116 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 2000) [第 10 図]

西鹿渡遺跡第 21 次調査 RA041 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 2008) [第 11 図]

高櫛 A 遺跡第 2・3・5 次調査 RA005・009・012・030・033 壓穴建物跡出土土器

(盛岡市教委編 2009) [第 12 図]

高櫛 A 遺跡第 2・3・5 次調査 RA015・020・031 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委編 2009) [第 13 図]

組成(特徴)：土師器壺(高台付) A (口縁部内湾・体部有段風沈線または沈線なし・平底風丸底, 柱状高台),

土師器甕(口縁部外反, 長胴・球胴), 猛惠器壺(少數)

■9世紀前葉

志波城跡(城柵, 律令政府)

政庁周囲「造志波城所」関連施設(壓穴建物)(803 年頃)

志波城跡第 36 次調査 SI426 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 1986) [第 14 図]

志波城跡第 38 次調査 SI428・430 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 1988) [第 15 図]

志波城跡第 97 次調査 SI459 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 2005) [第 16 図]

志波城跡第 34 次調査 SI425 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 1985) [第 17 図]

志波城跡第 92 次調査 SI458 壓穴建物跡出土土器 (盛岡市教委 2003) [第 17 図]

組成(特徴)：

組成①—猛惠器壺(口縁部直線的外傾, 底部ヘラ切り・再調整),

猛惠器蓋・盤・高台付塊・稜塊・甕・長頸瓶, あかやき土器甕, 土師器壺 B (少數)

組成②—土師器壺 A (体部有段風沈線・丸底風平底), 土師器甕(口縁部外反)

政庁区画施設(築地内溝)(803～811 年)

志波城跡第 85 次調査 SD515 政庁築地内溝跡出土土器 (盛岡市教委 2003) [第 24 図]

組成(特徴)：猛惠器壺(口縁部直線的外傾, 底部再調整)

郭内北部工房域(竪穴建物跡) (803~811年)

志波城跡第16次調査S1371竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1981)〔第18図〕

志波城跡第51次調査S1441竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1991)〔第18図〕

組成(特徴) :

組成①-土師器壺A?・土師器甕(口縁部外反, 長胴・球胴)

組成②-須恵器壺(口縁部直線的外傾, 底部ヘラ切り), あかやき土器甕(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体),
土師器壺B(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体), あかやき土器甕, 須恵器甕

外郭南辺兵舎域(竪穴建物跡) (803~811年)

志波城跡第49次調査S1385・435・437竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1990)〔第19図〕

志波城跡第49次調査S1436・439竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1990)〔第20図〕

志波城跡第49次調査S1438竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1990)〔第21図〕

志波城跡第49次調査S1440竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1990)〔第22図〕

組成(特徴) : 須恵器壺(口縁部直線的外傾, 底部ヘラ切り・再調整),

須恵器蓋, 須恵器高台付塊, 須恵器長頸瓶,

あかやき土器(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体), あかやき土器甕,

土師器壺B(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体), 土師器甕(口縁部外反, 長胴・球胴)

政府主要舍殿(西脇殿)柱抜取穴(812年頃)

志波城跡第37次調査SB580西脇殿跡掘方抜取穴出土土器(盛岡市教委1987)〔第23図〕

組成(特徴) : 須恵器壺(口縁部直線的外傾, 底部ヘラ切り・糸切り・再調整), 須恵器蓋

律令政府系計画集落

館遺跡第1・2次調査RA003・012竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1999)〔第25図〕

館遺跡第1次調査RA004・009竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1999)〔第26図〕

館遺跡第1次調査RA005竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1999)〔第27図〕

館遺跡第1・2次調査RA006・013竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1999)〔第28図〕

松ノ木遺跡第6次調査RA026・027竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委1999)〔第29図〕

組成(特徴) : 須恵器壺(口縁部直線的外傾, 底部糸切り), あかやき土器(内湾ぎみ外傾, 底部糸切り),

土師器壺B(内湾ぎみ外傾, 底部糸切り・再調整, 非主体), 土師器甕(口縁部外反),

あかやき土器甕, 須恵器蓋・甕・大甕

在地蝦夷系一般集落

台太郎遺跡第25次調査RA332・337・335・341竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委2010)〔第30図〕

館野前遺跡第1次調査RA002竪穴建物跡出土土器(盛岡市教委編2011)〔第31図〕

一本松遺跡第3次調査RA109・110・111・112・131竪穴建物跡, RE102竪穴状構造出土土器

(盛岡市教委編2008)〔第32図〕

上畑遺跡第5次調査RA042竪穴建物跡(盛岡市教委2003)〔第33図〕

組成(特徴) :

組成①—土師器壺A(口縁部内湾・体部有段風沈線または沈線なし, 丸底風平底),

土師器壺B(口縁部内湾ぎみ外傾, 非主体), 土師器甕(口縁部外反, 長胴・球胴)

組成②—須恵器壺(口縁部直線の外傾, 底部ヘラ切り・糸切り),

土師器甕(口縁部外反, 長胴・球胴), 須恵器大甕

組成③—土師器壺A(口縁部内湾・体部有段風沈線, 平底風丸底), 土師器壺B(口縁部内湾ぎみ外傾),

須恵器壺(口縁部直線の外傾), あかやき土器壺(口縁部内湾ぎみ外傾),

あかやき土器甕, 土師器甕

■9世紀中葉

在地蝦夷系一般集落

台太郎遺跡第27次調査RG339溝跡出土土器(盛岡市教委2010)〔第34図〕

館野前遺跡第1次調査RA003・004竪穴建物跡(盛岡市教委2011)〔第35図〕

一本松遺跡第3次調査RA126・127竪穴建物跡(盛岡市教委2008)〔第36図〕

百目木遺跡第14次調査RA117竪穴建物跡(盛岡市教委2000)〔第37図〕

組成(特徴) : 須恵器壺(口縁部内湾ぎみ外傾, 底部糸切り), あかやき土器壺(口縁部内湾ぎみ外傾, 底部糸切り), 土師器壺B(口縁部内湾ぎみ外傾, 底部糸切り・再調整),

あかやき土器甕, 須恵器甕・長頸瓶, 土師器甕(口縁部外傾・長胴)

■9世紀後葉

在地蝦夷系一般集落

本宮熊堂B遺跡第12次調査RA030竪穴建物跡(盛岡市教委2000)〔第38図〕

台太郎遺跡第24次調査RA305竪穴建物跡(盛岡市教委2010)〔第39図〕

台太郎遺跡第40次調査RA536竪穴建物跡(盛岡市教委2002)〔第40図〕

台太郎遺跡第45次調査RA565竪穴建物跡(盛岡市教委2012)〔第41・42図〕

組成(特徴) : あかやき土器壺(底径やや小型化, 底部糸切り, 主体), あかやき土器高台付壺,

土師器壺B(底径やや小型化, 底部回転糸切り・再調整), 須恵器壺(非主体),

あかやき土器甕, 土師器甕(頸部短長化・粗雑化), 須恵器甕・壺(非主体)

■10世紀前葉

在地蝦夷系特殊集落

林崎遺跡第1次調査RA001・003竪穴建物跡(盛岡市教委1979)〔第43図〕

林崎遺跡第1次調査RA004竪穴建物跡(盛岡市教委1979)〔第44図〕

林崎遺跡第1次調査RA007竪穴建物跡(盛岡市教委1979)〔第45図〕

林崎遺跡第1次調査RA009竪穴建物跡(盛岡市教委1979)〔第46図〕

林崎遺跡第22次調査RA027竪穴建物跡(盛岡市教委1999)〔第47図〕

組成(特徴) : あかやき土器壺(底径小型化, 主体), あかやき土器高台付壺(高台やや大型化)

土師器壺B(底径やや小型化, 底部糸切り・再調整), あかやき土器甕

在地蝦夷系一般集落

猪去館遺跡第1次調査 RA501・502 壓穴建物跡（盛岡市教委 1989）〔第 48 図〕

猪去館遺跡第1次調査 RA506・508 壓穴建物跡（盛岡市教委 1989）〔第 49 図〕

猪去館遺跡第1次調査 RA507 壓穴建物跡（盛岡市教委 1989）〔第 50 図〕

本宮熊堂B遺跡第12次調査 RA027 壓穴建物跡（盛岡市教委 2009）〔第 51 図〕

一本松遺跡第3次調査 RA121・129・119・125 壓穴建物跡（盛岡市教委 2008）〔第 52 図〕

組成(特徴)：あかやき土器(底径小型化、底部やや付高台風、主体)、あかやき土器高台付环(高台やや大型化・菊花文)、土師器环B(底部やや付高台風、三角高台)、

あかやき土器甕、土師器甕(頸部短長化、粗雑化)

■10世紀中葉

在地蝦夷系特殊集落

林崎遺跡第1次調査 RA002 壓穴建物跡（盛岡市教委 1979）〔第 53 図〕

林崎遺跡第16次調査 RG007 大溝跡（盛岡市教委 1998）〔第 53 図〕

林崎遺跡第22次調査 RA028 壓穴建物跡（盛岡市教委 1999）〔第 54 図〕

大宮北遺跡第11・13次調査 RG015 溝跡（盛岡市教委 2008）〔第 55 図〕

組成(特徴)：あかやき土器(全体形がやや小型化、主体)、あかやき土器高台付环(高台やや大型化)、

土師器环B(外面ミガキ+黒色処理)

在地蝦夷系一般集落

猪去館遺跡第1次調査 RA504 壓穴建物跡（盛岡市教委 1989）〔第 56 図〕

組成(特徴)：あかやき土器环(全体形がやや小型化)、あかやき土器高台付环(高台やや大型化)、

土師器甕・あかやき土器甕(粗雑化・個体数減少)

■10世紀後葉

在地蝦夷系特殊集落

大宮北遺跡第8次 RD008 土坑（盛岡市教委 2007）〔第 57 図〕

組成(特徴)：あかやき土器环(小型化)、あかやき土器高台付环(高足高台・削出高台)、

あかやき土器甕

在地蝦夷系一般集落

台太郎遺跡第27次 RG378 溝跡（盛岡市教委 2010）〔第 58 図〕

組成(特徴)：土師器高台付环(削出高台)

■11世紀

在地蝦夷系一般集落

台太郎遺跡第25次調査 RA393 壓穴住居跡（盛岡市教委 2010）〔第 59 図〕

台太郎遺跡台40次調査 RG360 溝跡（盛岡市教委 2012）〔第 59 図〕

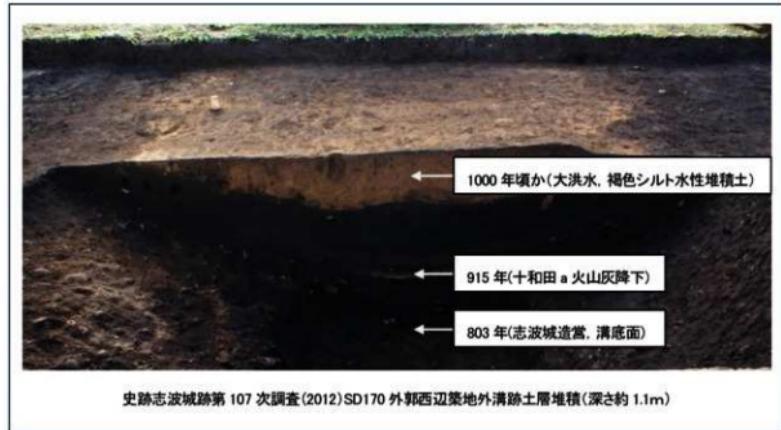
組成(特徴)：あかやき土器小皿、あかやき土器高台付坏(削出高台)，
土師器高台付坏(三角高台)

6. 総括

以上、季石川南岸で盛岡市教育委員会が調査した古代遺跡出土土器について、7世紀から11世紀までの土器群変遷を曆年代順に組み立ててみた。盛南地区の区画整理に伴う大規模発掘調査の成果がまとまりつつある中、豊富な資料を検討することができるようになっている。

本稿の変遷案に従えば、いわゆる「9世紀前葉の空白」は解消され、連続とした集落の変遷を追うことができるようになる。一方、奥六郡の安倍氏支配から前九年・後三年合戦にかけての10世紀後葉から11世紀の当該地域土器群の様相がはっきりしない。この時期の資料が多く出土するのは、当該地域の北方に隣接する滝沢台地から中津川流域であり（盛岡市遺跡の学び館 2012），集落域が移動したものと考えられる。地域支配の観点から見れば、川幅の広い季石川（当時の北上川本流）を北の防衛ラインとした坂上田村麻呂が構築した律令政府の支配システムから、同じ季石川を南の防衛ラインとする安倍氏の支配システムへの転換、とも言えよう。そして、この集落域の移動の背景に、気候変動等に伴う大水害による「季石川南岸地域穀倉地帯の壊滅と衰退」という状況があったのではないか、という仮説を提示したい。根拠は以下のとおりである。

古代城柵である志波城跡の外大溝跡、外郭築地外溝跡、政府築地外溝跡すべての埋土において、十和田a火山灰堆積層の上部に、黒褐色自然堆積土層をはさんで厚く褐色シルト水性堆積土層があり、その堆積深から、西暦1000年前後に当該地域を大洪水が襲ったことが伺える。当該地域における古代の農耕・稻作遺構は不明確であり、耕作地そのものが当時どれほどの被害を被ったかを直接知る手掛かりはないが、溝跡における洪水層の様相（遺跡の基盤地形形成土に類似するほど締った厚い褐色シルト土層）と当該期の集落の減少は、その被害が復旧不能なほど大規模であったことを示すのではないか。そのため当時の人々は、水害を避けるため新たに北の滝沢台地・中津川流域へ移動せざるをえなかったと推定できる。

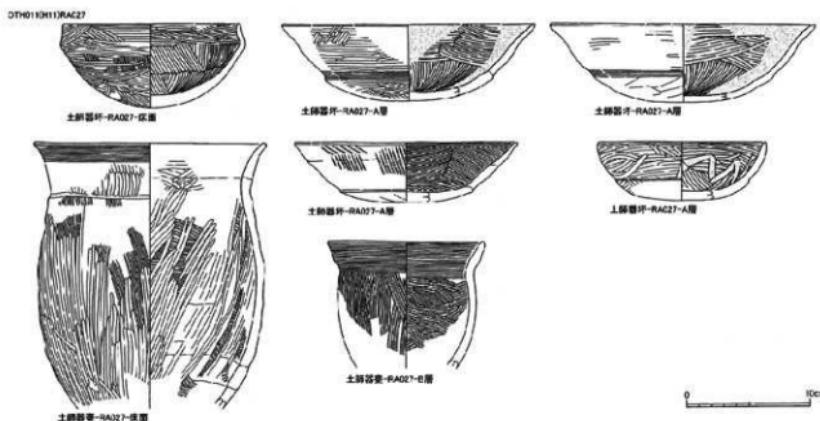


【引用文献】

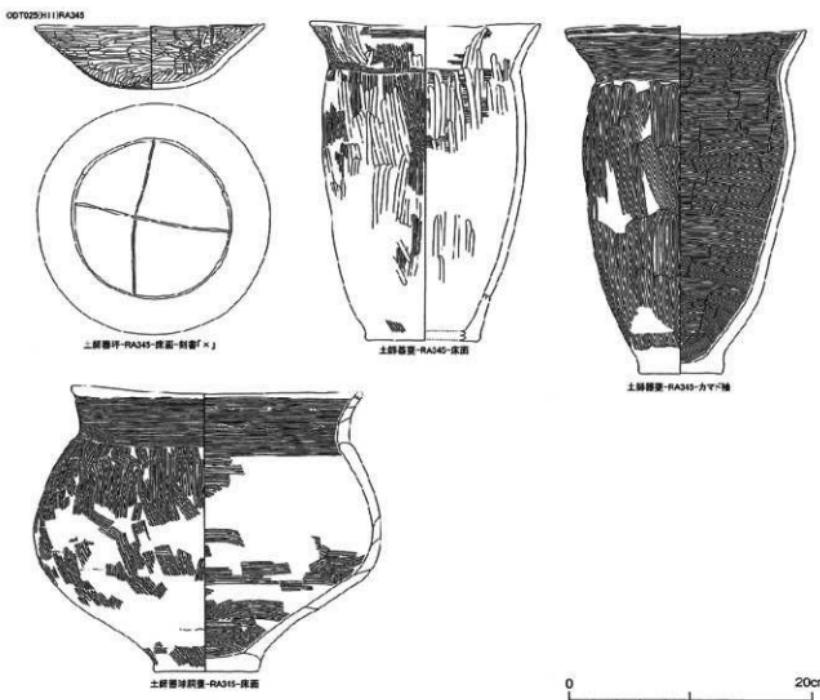
- 津嶋知弘 2004 「志波城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』蝦夷研究会編 高志書院
- 盛岡市遺跡の学び館 2012 『第11回企画展「検証！厨川柵-古代末期のもりおかべ」図録』
- 花巻市東和ふるさと歴史資料館 2012 『平成24年度特別企画展「平安時代後半の奥六郡中部一安倍・清原氏から奥州藤原氏の文化へ」図録』

【発掘調査報告書】

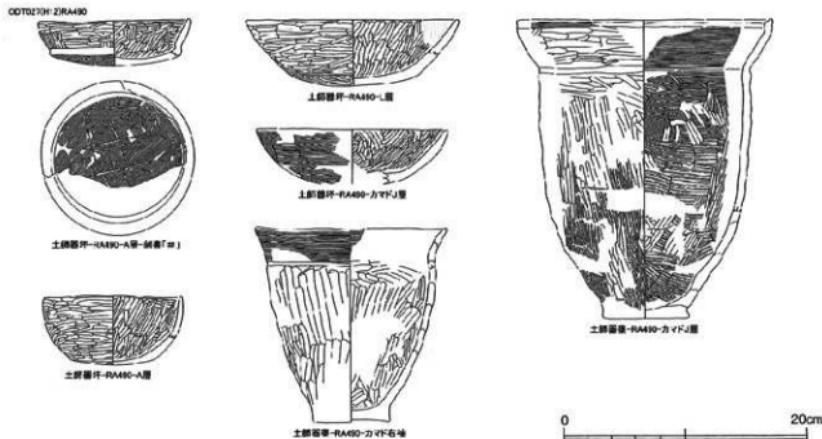
- 盛岡市教育委員会 1979 『太田方八丁遺跡-昭和53年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 1981 『志波城跡-昭和55年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 1985 『志波城跡-昭和59年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 1986 『志波城跡-昭和60年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 1988 『志波城跡-昭和62年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 1989 『上平遺跡群 猪去鰐遺跡-昭和63年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 1990 『志波城跡-平成元年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 1991 『志波城跡-平成2年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 1998 『盛岡市埋蔵文化財調査年報-平成5・6年度-』
- 盛岡市教育委員会 1999 『盛岡遺跡群-平成10年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 2000 『盛岡市内遺跡群-平成11年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 2002 『盛岡市内遺跡群-平成13年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 2003 『盛岡市内遺跡群-平成14年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 2003 『志波城跡-平成11~14年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会 2005 『盛岡市内遺跡群-平成15年度・16年度発掘調査報告-』
- 盛岡市教育委員会 2005 『志波城跡-平成15・16年度発掘調査概報-』
- 盛岡市教育委員会編 2007 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書I-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成5~12年度発掘調査①-』独立行政法人都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会
- 盛岡市教育委員会編 2008 『一本松遺跡-市道釜淵谷地・上野線建設関連発掘調査報告書-』
盛岡市・盛岡市教育委員会
- 盛岡市教育委員会 2008 『盛岡市内遺跡群-平成18・19年度発掘調査報告-』
- 盛岡市教育委員会編 2009 『高倉A遺跡-「パークスクエア都南中央」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書-』
宮城開発株式会社・盛岡市教育委員会
- 盛岡市教育委員会編 2009 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書II-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成5~12年度発掘調査②-』独立行政法人都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会
- 盛岡市教育委員会編 2010 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書III-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成5~12年度発掘調査③-』独立行政法人都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会
- 盛岡市教育委員会編 2011 『飯野前遺跡-寺院建設に伴う緊急発掘調査報告書-』
宗教法人長善寺・盛岡市教育委員会
- 盛岡市教育委員会編 2012 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書IV-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成13~18年度発掘調査④-』独立行政法人都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会



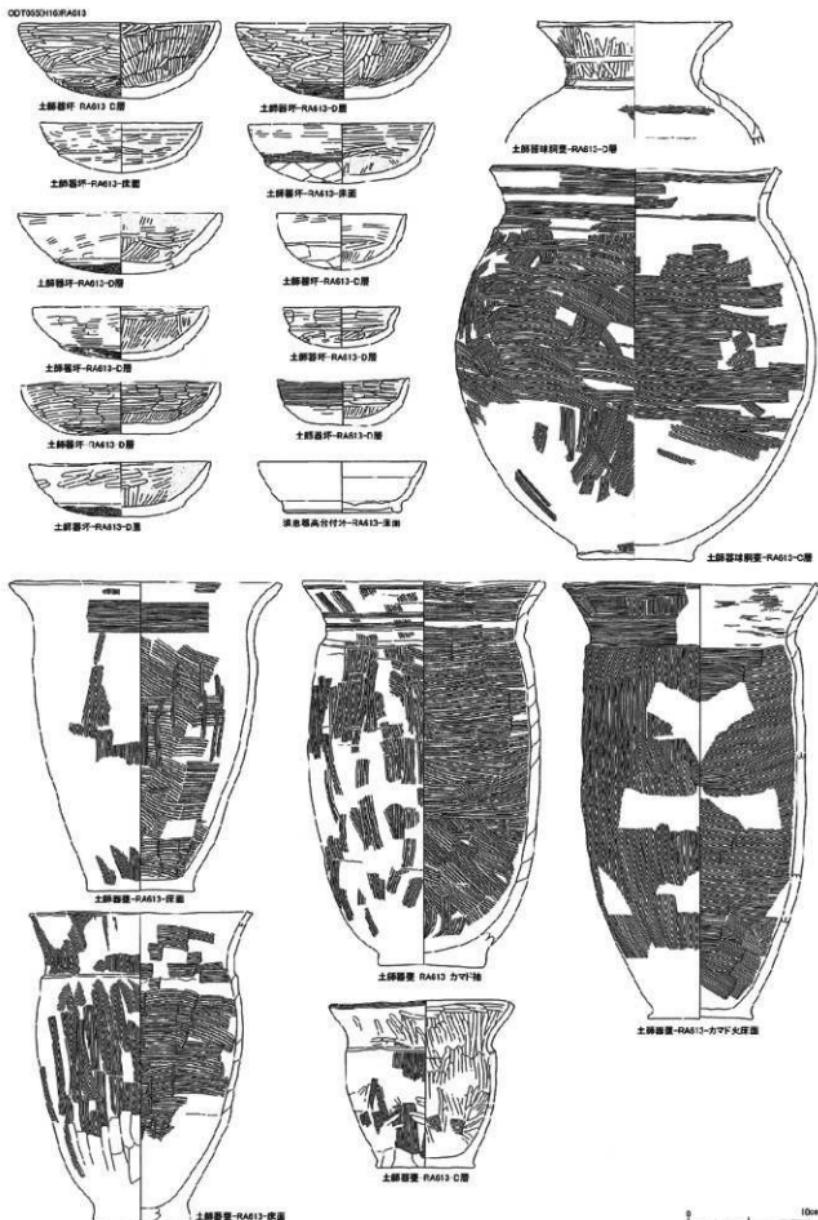
第1図 竹鼻遺跡第11次(H11)RA027 積穴建物跡[7世紀前半]



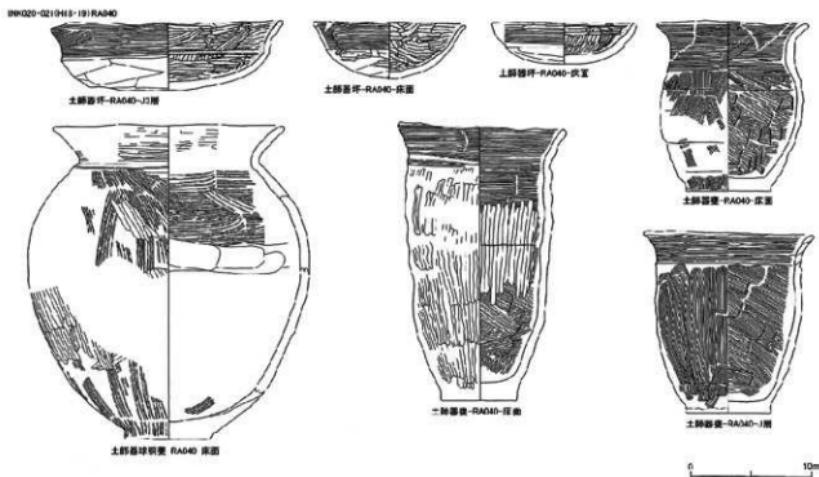
第2図 台太郎遺跡第25次(H11)RA345 積穴建物跡[7世紀後半]



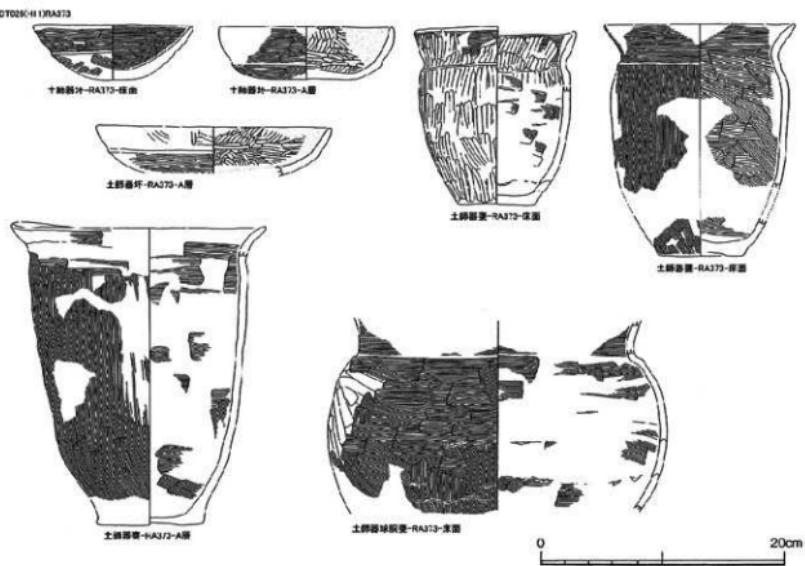
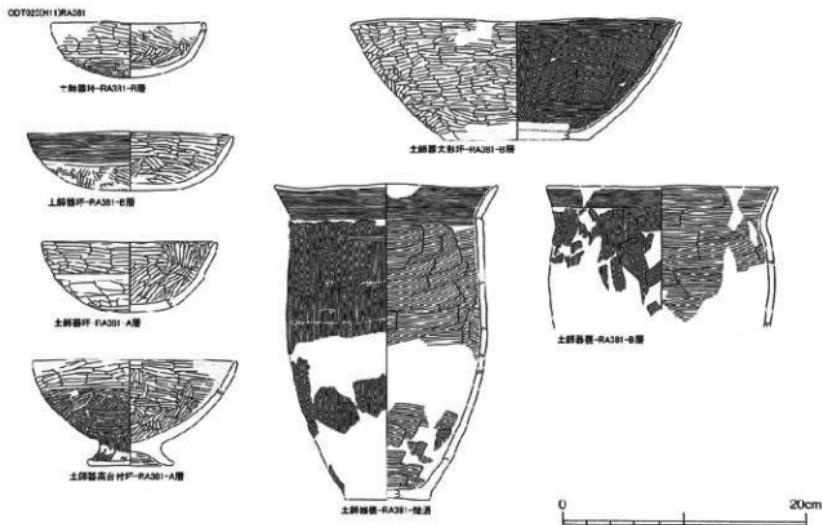
第3図 台太郎遺跡第27次(H12)RA490 壇穴建物跡[8世紀前葉]



第4図 台太郎遺跡第55次(H16)RA613 竪穴建物跡[8世紀中葉]

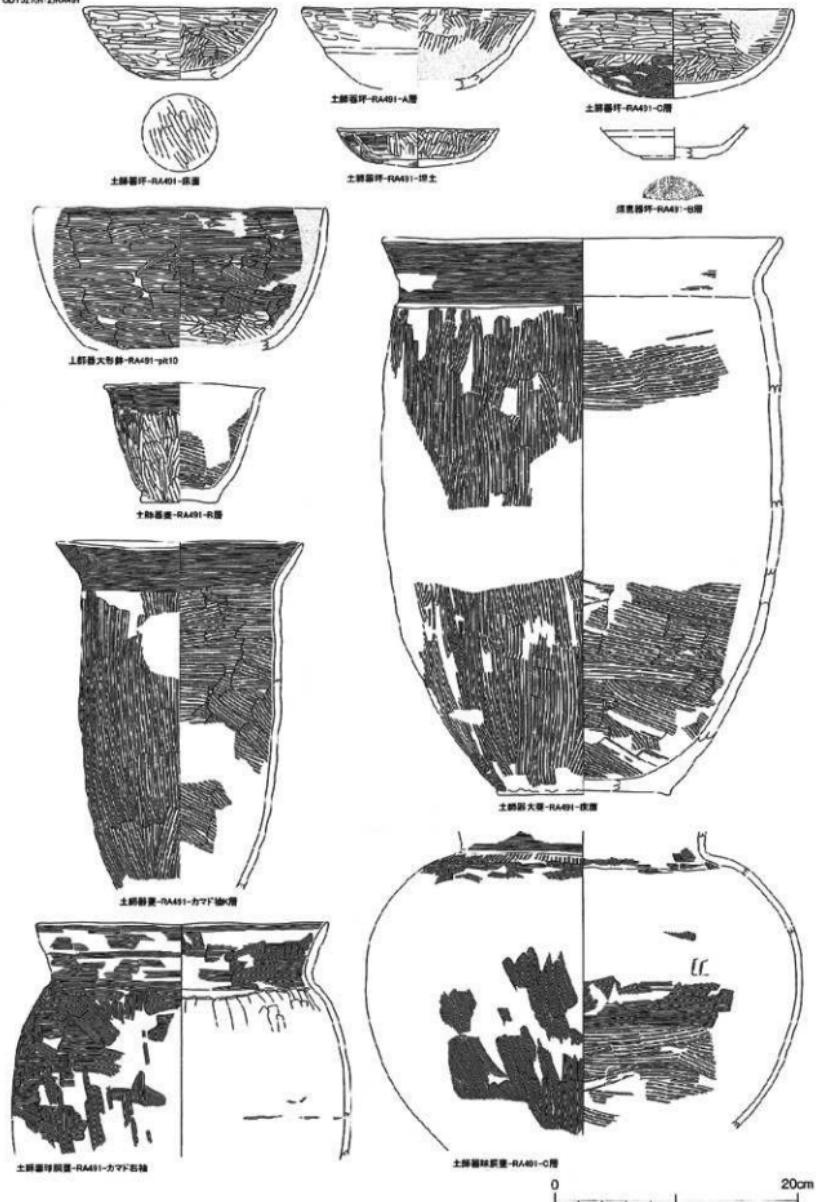


第5図 西鹿渡遺跡第20・21次(H18・19)RA040 積穴建物跡〔8世紀中葉〕

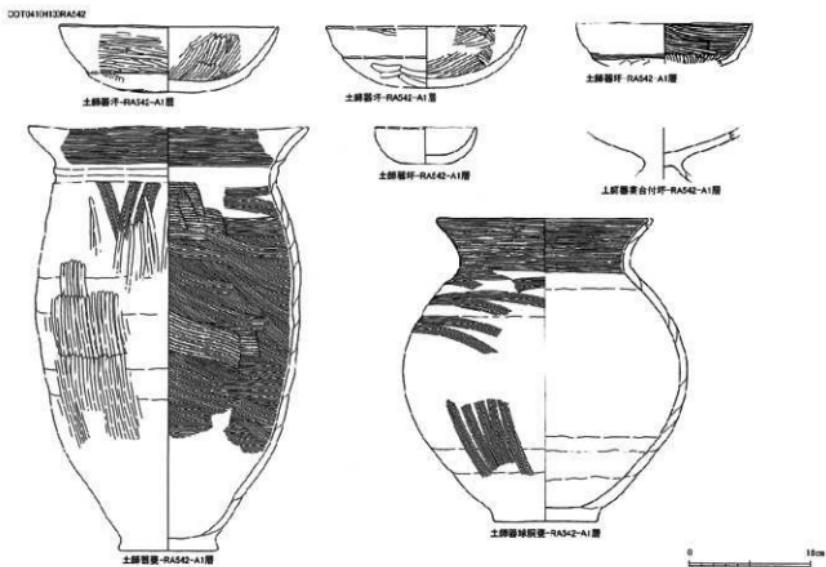
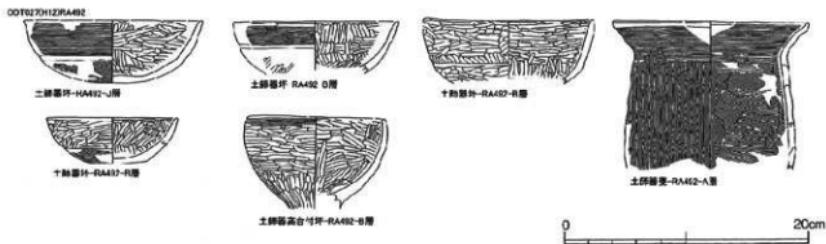


第6図 台太郎遺跡第25次(H11)RA381・373竪穴建物跡[8世紀後葉～9世紀前葉]

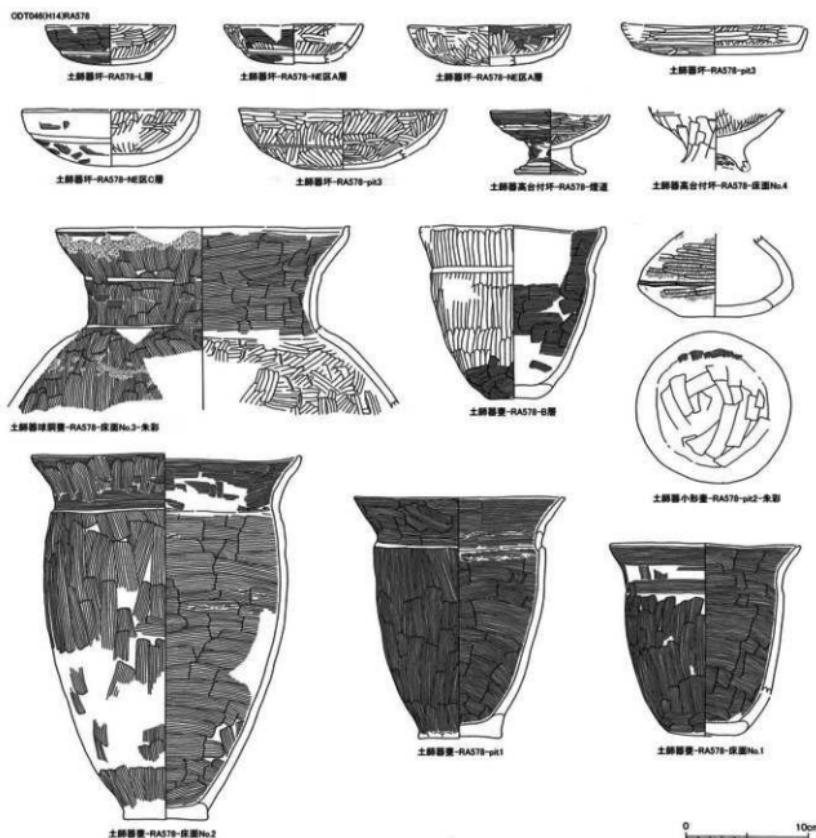
ODT220H2RA491



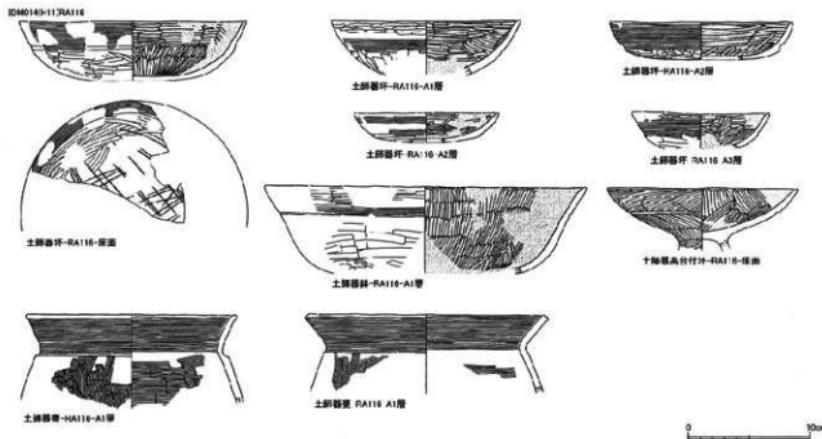
第7図 台太郎遺跡第27次(H12)RA491 竪穴建物跡[8世紀後葉～9世紀前葉]



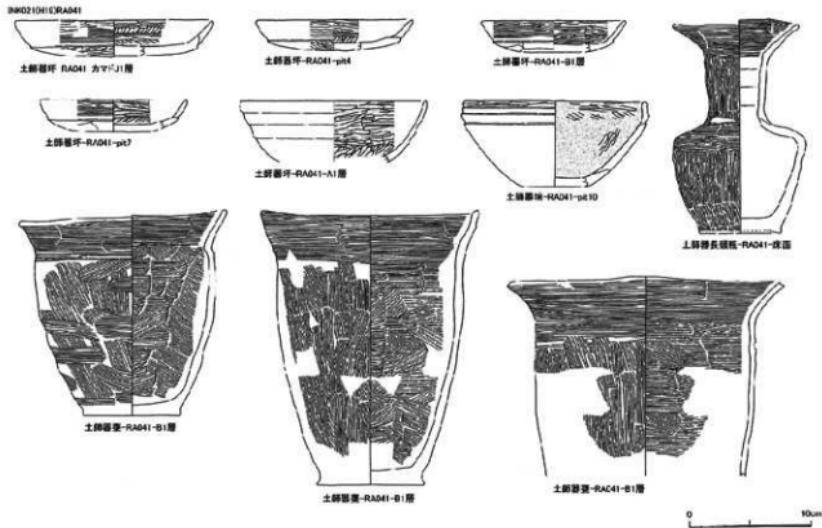
第8図 台太郎遺跡第27次(H12)RA492、第41次(H13)RA542 竪穴建物跡〔8世紀後葉～9世紀前葉〕



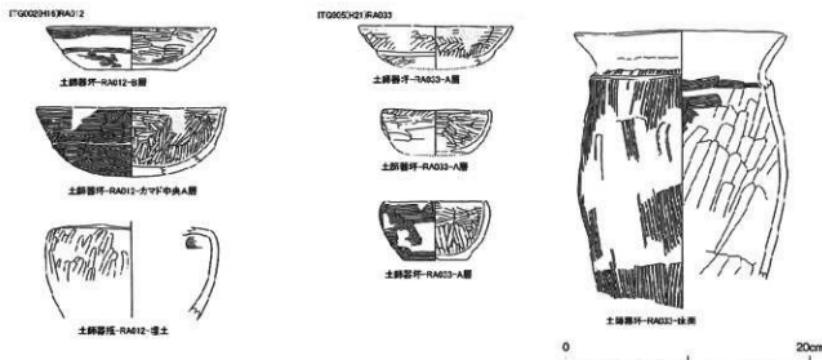
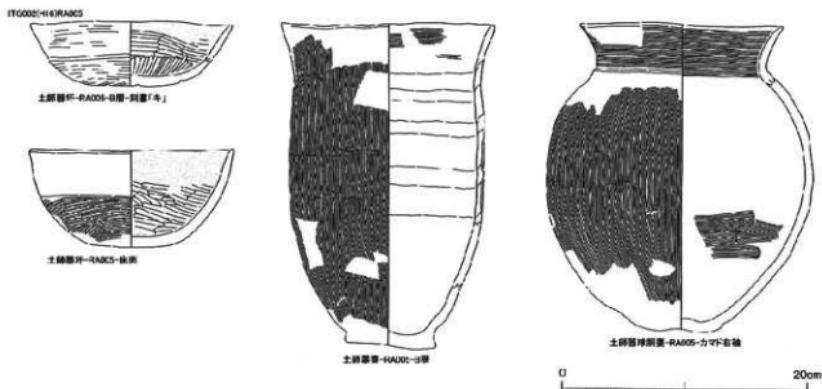
第9図 台太郎遺跡第46次(H14)RA578 竪穴建物跡[8世紀後葉～9世紀前葉]



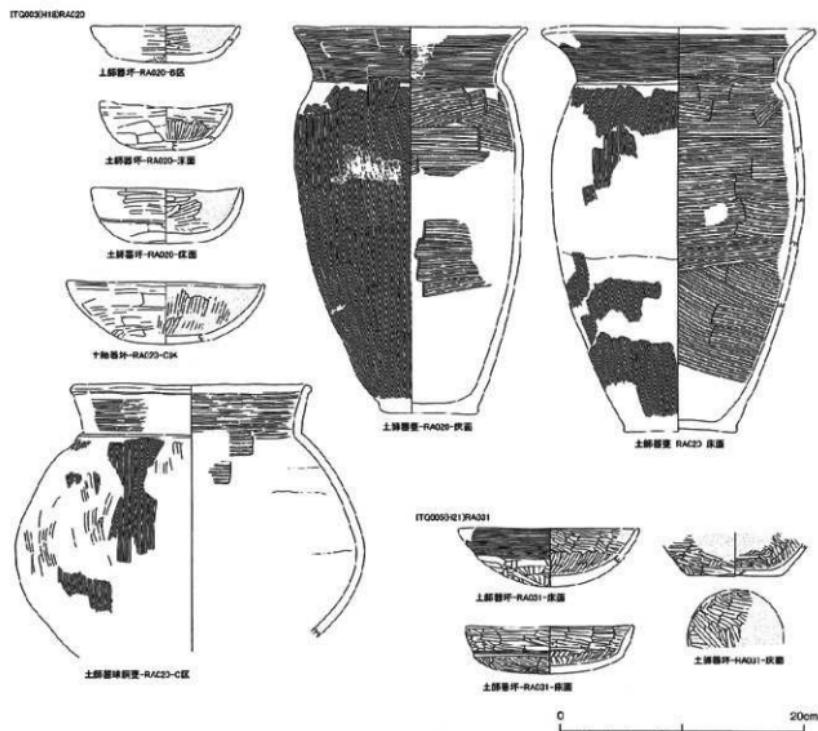
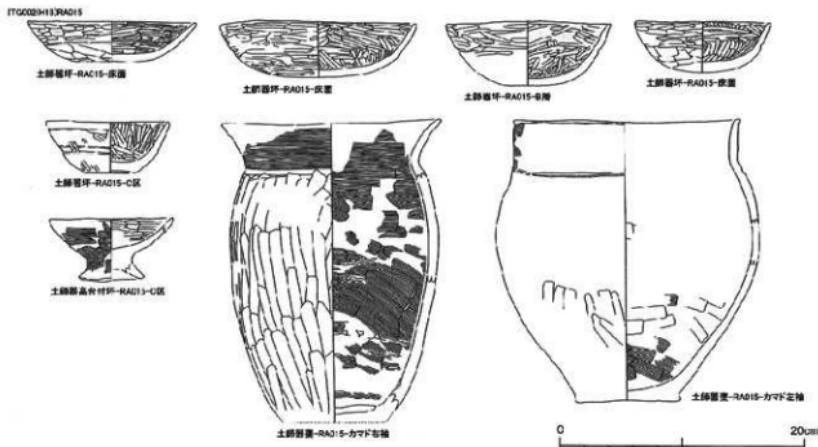
第10図 百目木遺跡第14次(H11)RA116 竪穴建物跡[8世紀後葉～9世紀前葉]



第11図 西鹿渡遺跡第21次(H19)RA041 竪穴建物跡[8世紀後葉～9世紀前葉]

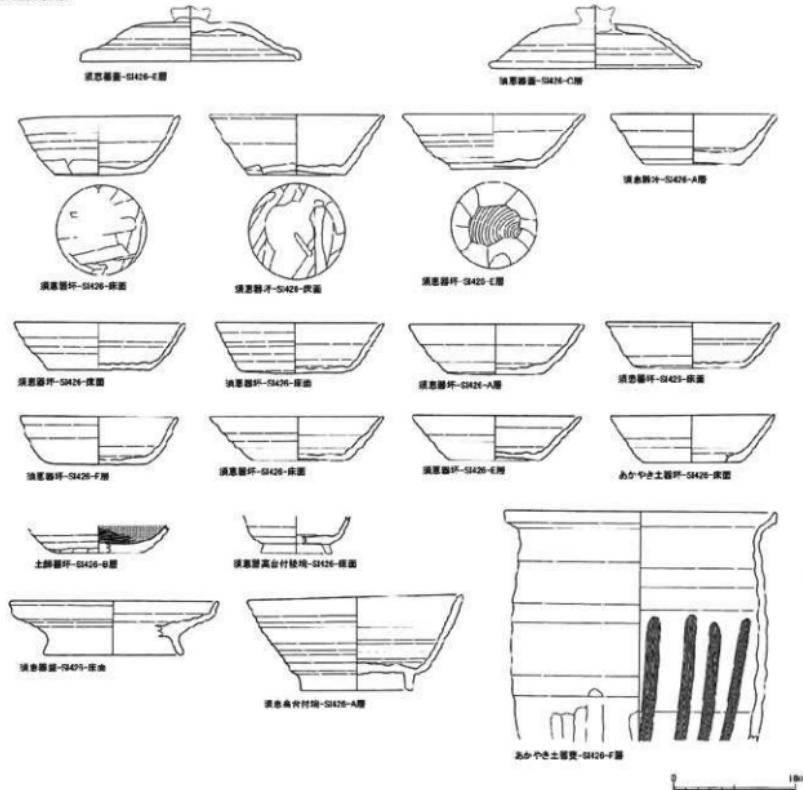


第 12 図 高櫓 A 遺跡 第 2 次(H16)RA005・009・012・第 3 次(H18)RA030・第 5 次(H21)RA033 竪穴住居跡
〔8世紀後葉～9世紀前葉〕



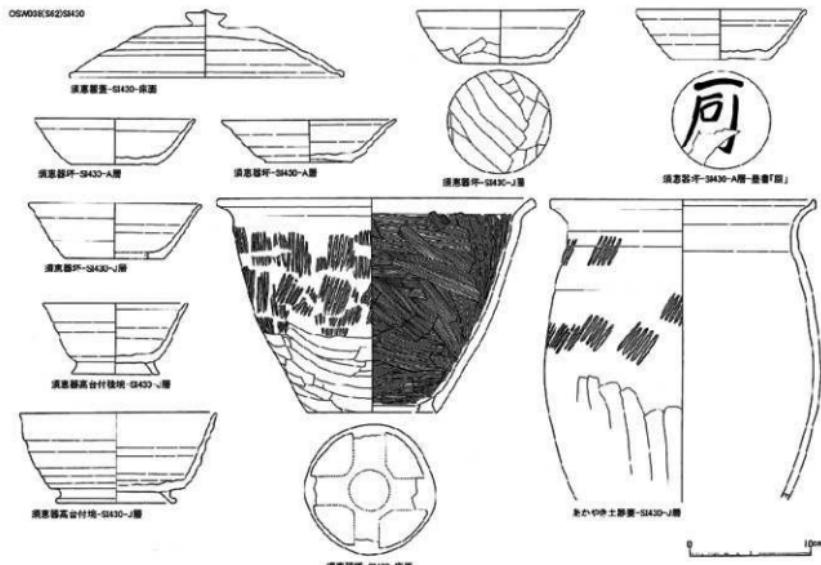
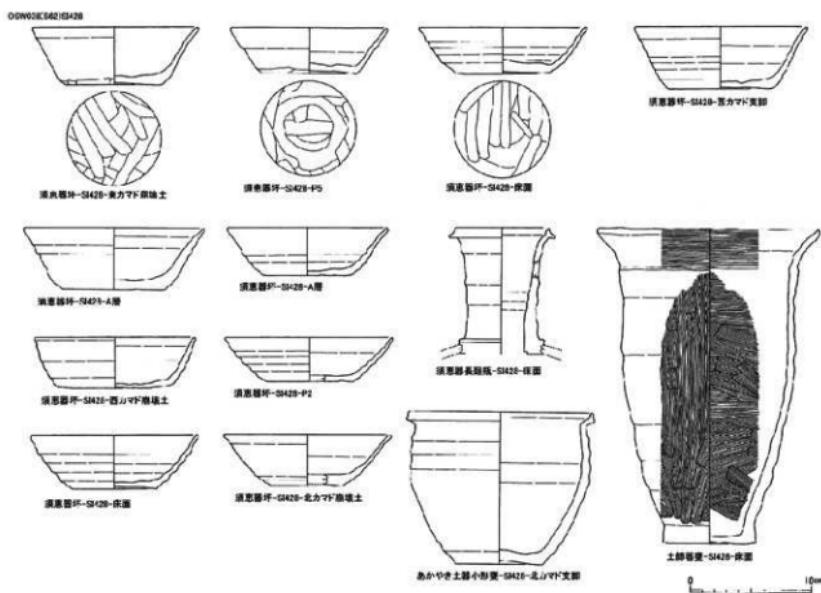
第 13 図 高櫓 A 遺跡第 2 次(H16)RA015・第 3 次(H18)RA020・第 5 次(H21)RA031 竪穴建物跡
〔8世紀後葉～9世紀前葉〕

SI426-S60/SI426

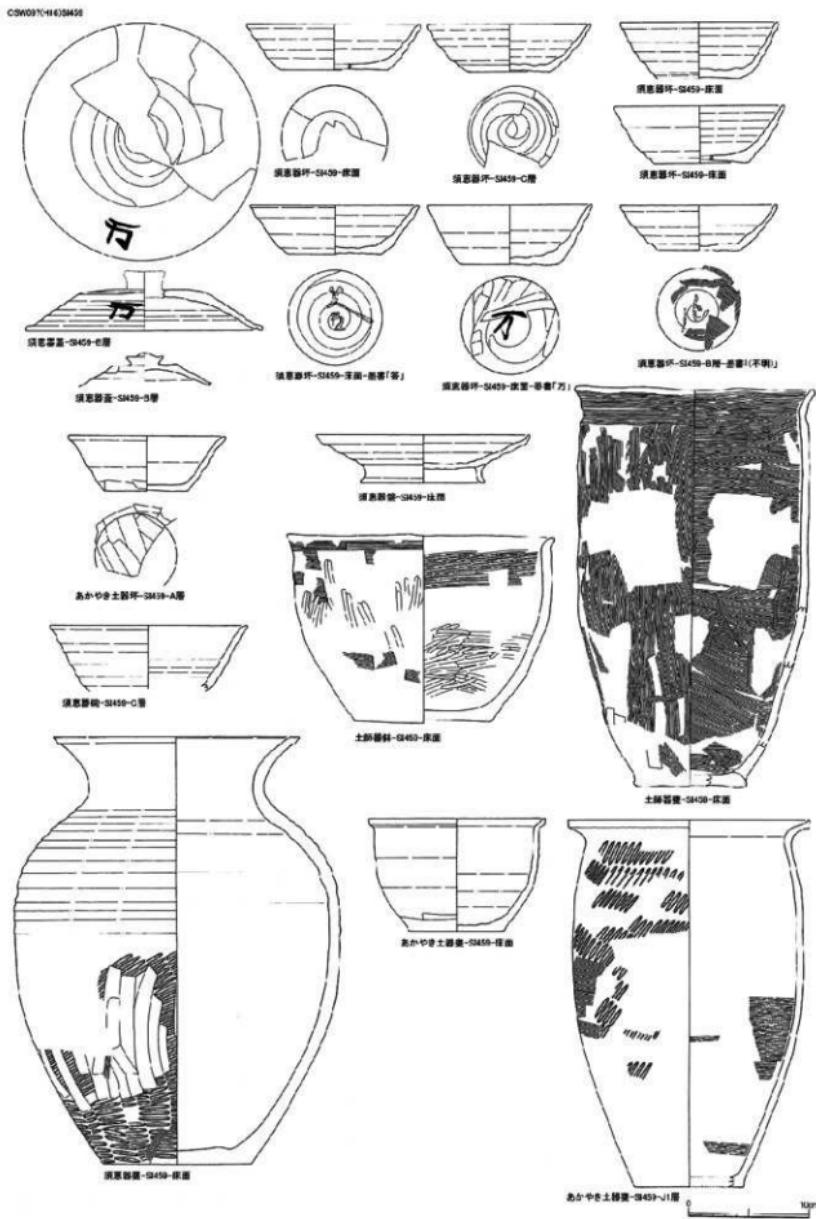


第14図 志波城跡第36次調査(S60)南東官衛域 SI426 竪穴建物跡

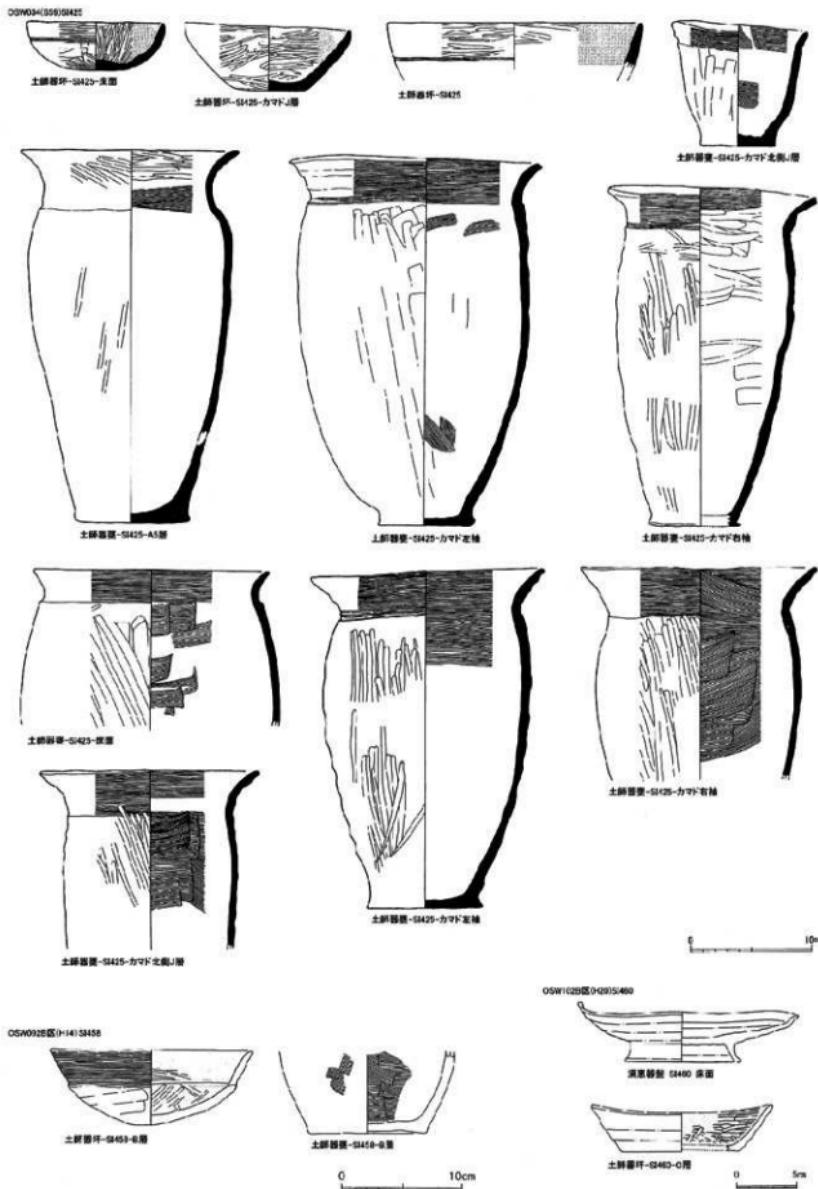
[9世紀前葉(「造志波城所」関連 803年頃)]



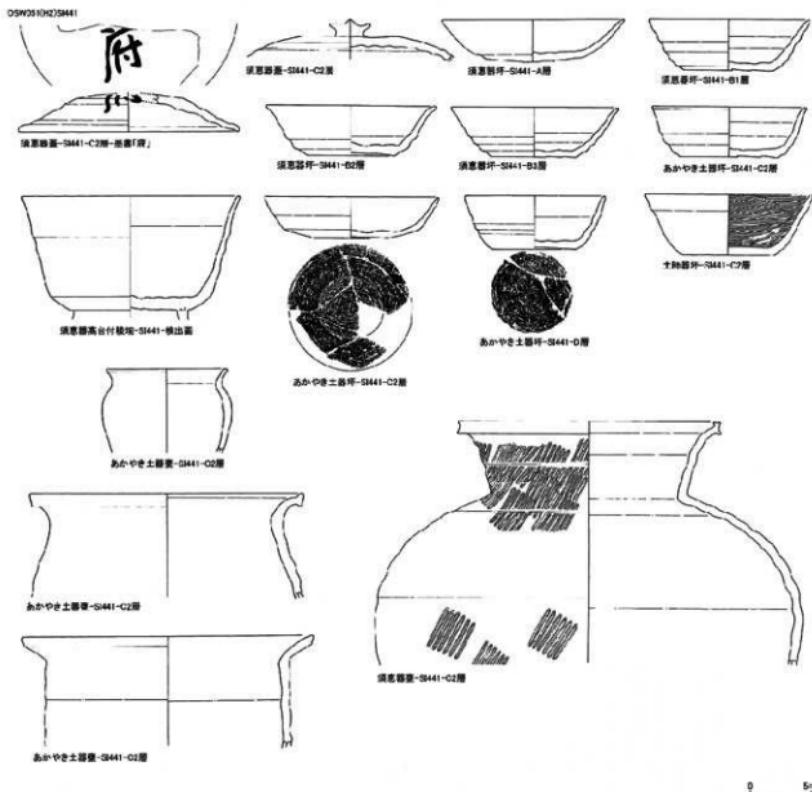
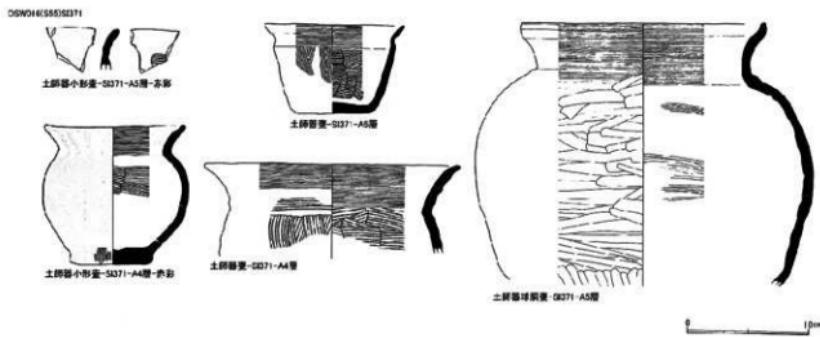
第15図 志波城跡第38次調査(S62)南東官衙域 SI428・430 竪穴建物跡
〔9世紀前葉「造志波城所」関連803年頃〕



第16図 志波城跡第97次(H16)南西官衙域 SI459 竪穴建物跡
〔9世紀前葉「造志波城所」関連 803年頃〕

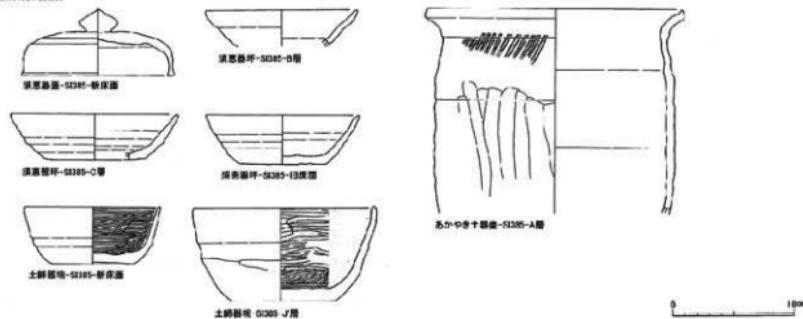


第 17 図 志波城跡第 34 次(S59)・102 次 B 区(H20)政庁北方 SI425・460 壓穴建物跡、
第 92 次 B 区政庁西方 SI458 壓穴建物跡〔9世紀前葉(「造志波城所」関連 803 年頃)〕

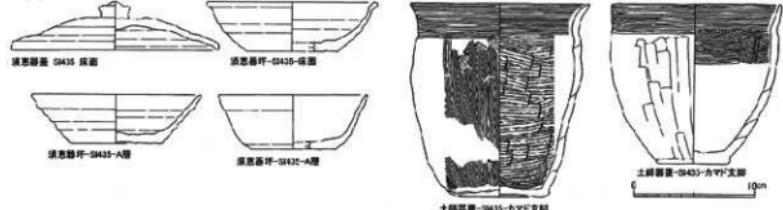


第18図 志波城跡第16次(S55)-51次(H2)郭内北部工房域 SI371-441 竪穴建物跡
[9世紀前葉(志波城機能期 803~811年)]

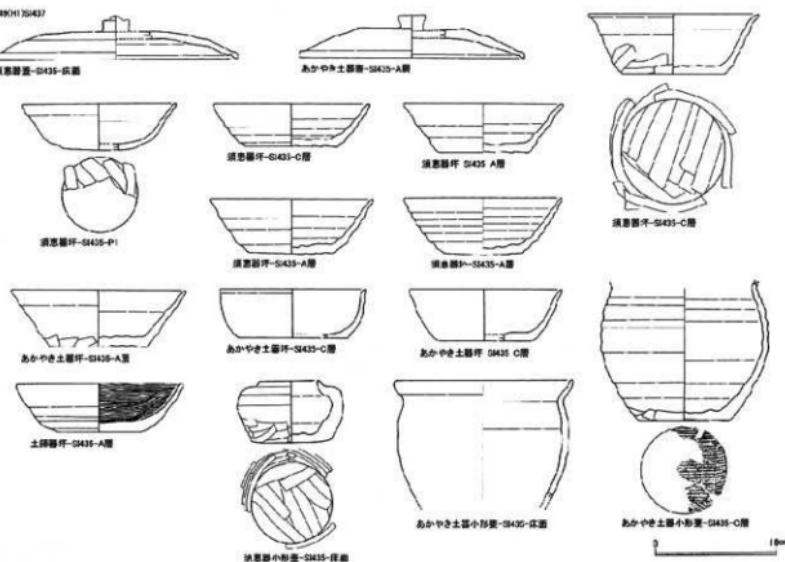
DSW04KH1/SI385



DSW04KH1/SI435

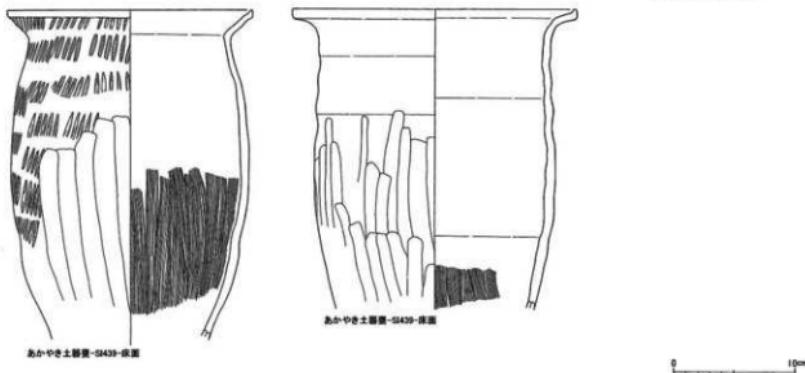
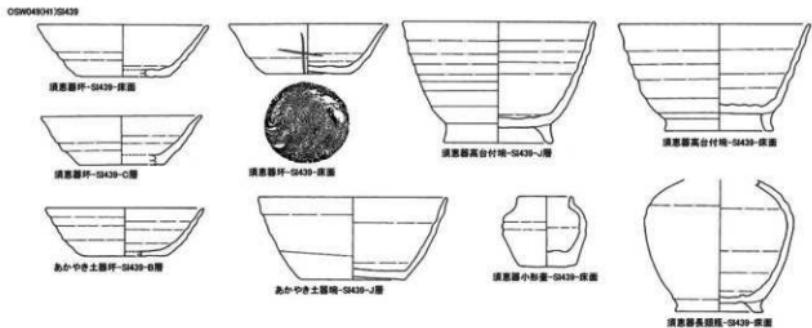
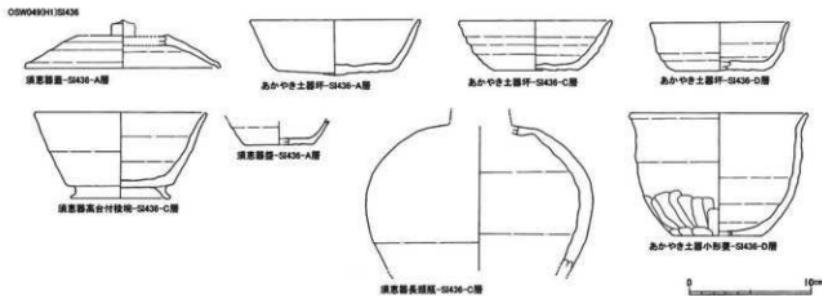


DSW04KH1/SI437

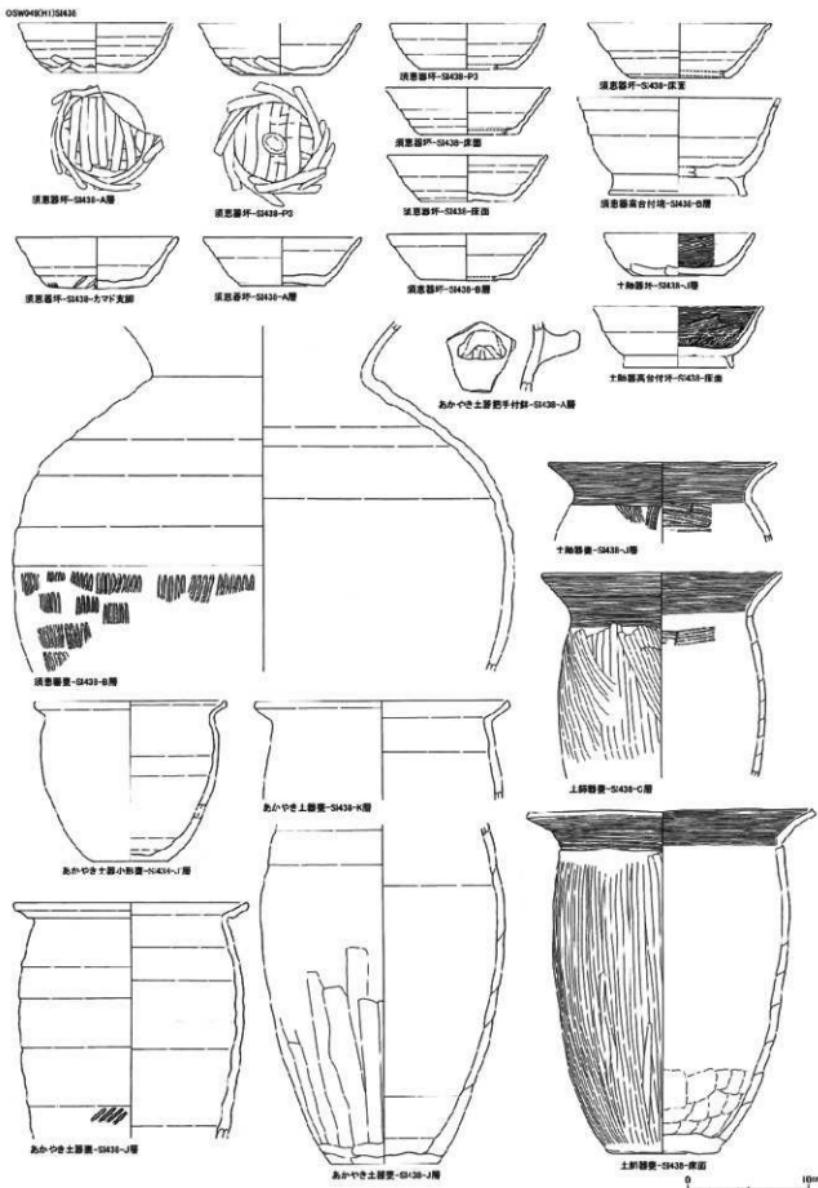


第19図 志波城跡第49次(H1)外郭南辺兵舎域 SI385・435・437 竪穴建物跡

〔9世紀前葉(志波城機能期 803~811年)〕

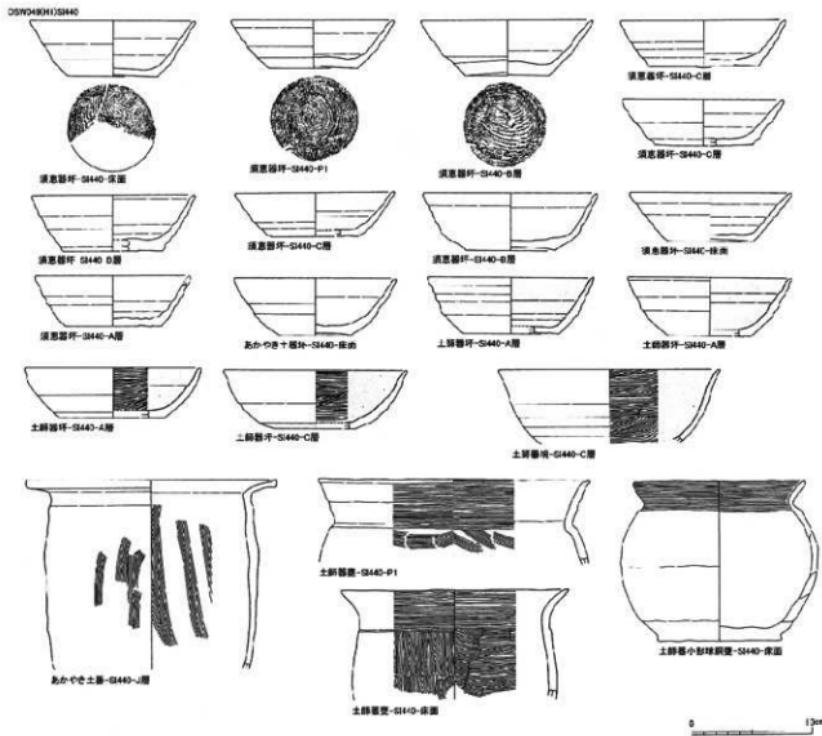


第20図 志波城跡第49次調査(H1)外郭南辺兵舎域 SI436・439 竪穴建物跡
〔9世紀第前葉(志波城機能期 803~811年)〕

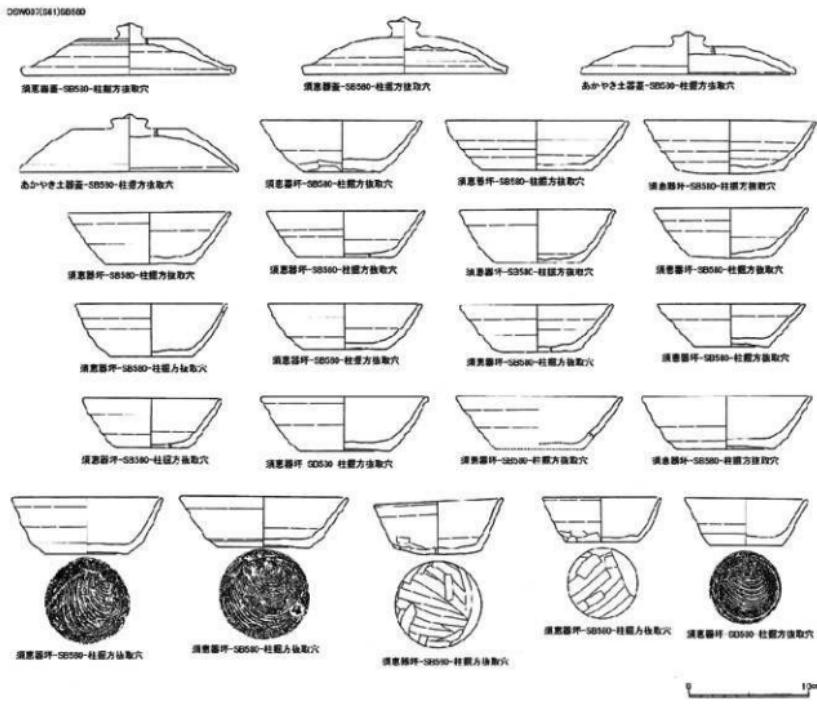


第 21 図 志波城跡 第 49 次(H1)外郭南辺兵舎域 SI438 穫穴建物跡

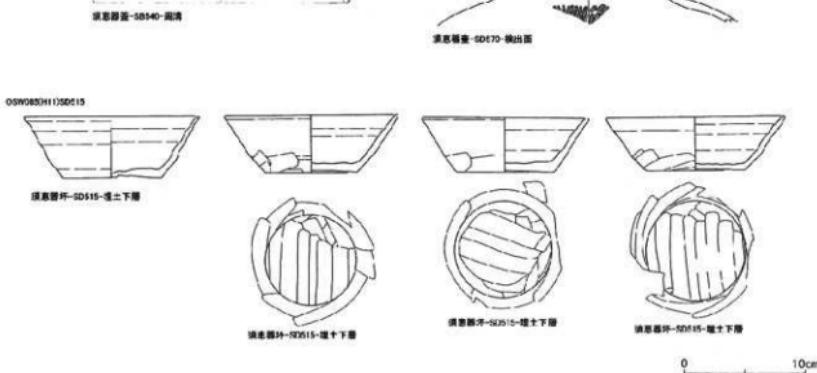
[9世紀前葉(志波城機能期 803~811 年)]



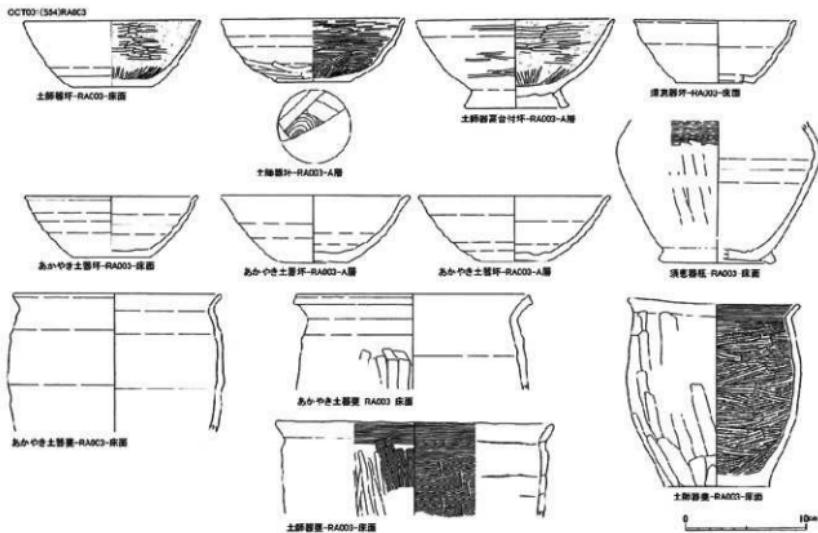
第 22 図 志波城跡第 49 次(H1)外郭南辺兵舎域 SI440 竪穴建物跡
〔9世紀前葉(志波城機能期 803~811 年)〕



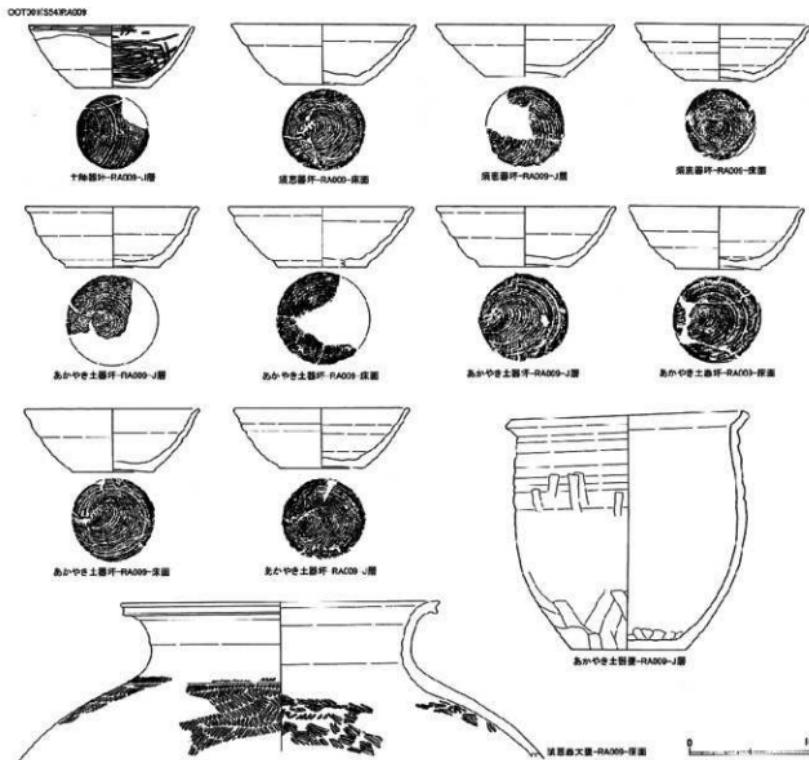
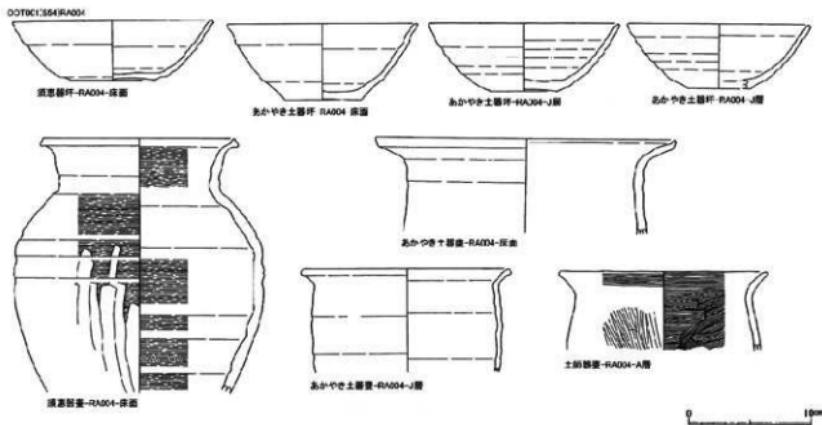
第23図 志波城跡第37次調査(S61)SB580 政庁西脇殿跡[9世紀前葉(志波城廃絶期 812年頃)]



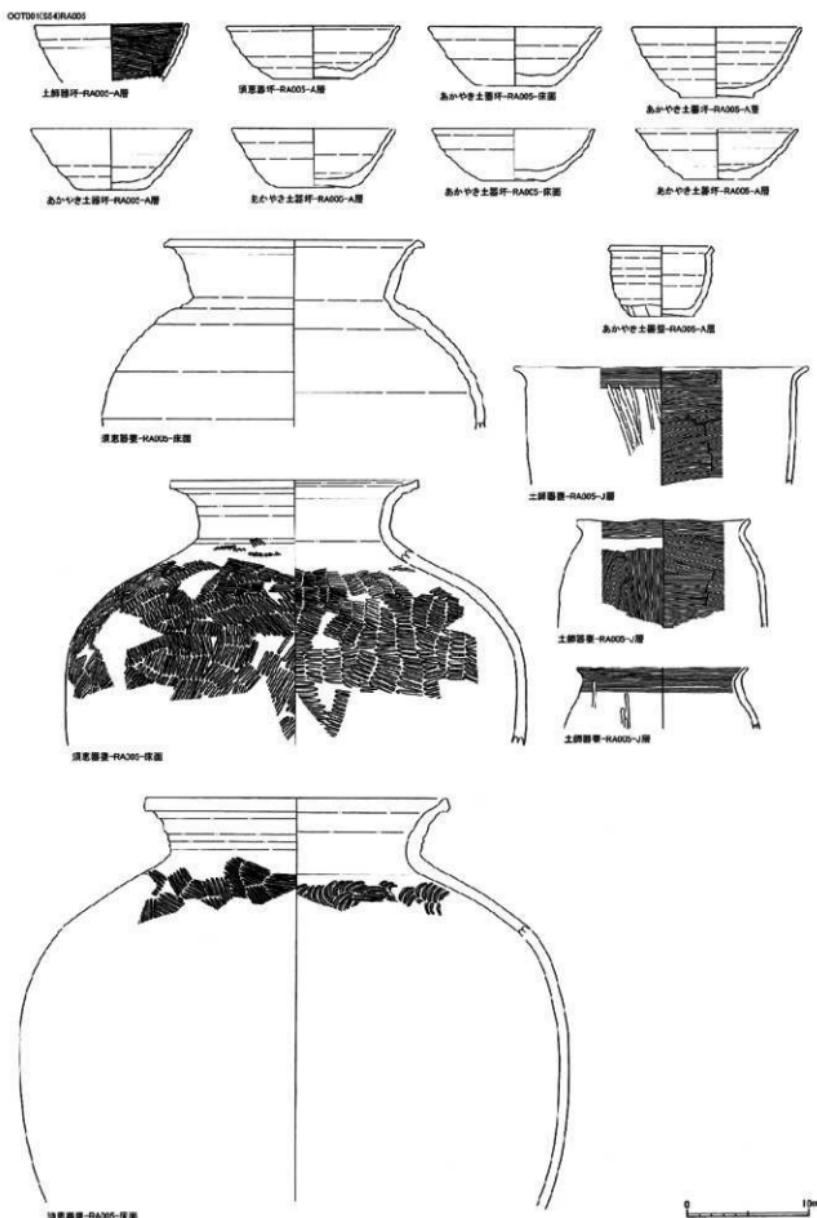
第24図 志波城跡第85次調査(H11)SB540 政府東脇殿跡・SD570 政府西辺築地外溝跡・
SD515 政府南辺築地内溝跡〔9世紀前葉(志波城機能期 803~811年)〕



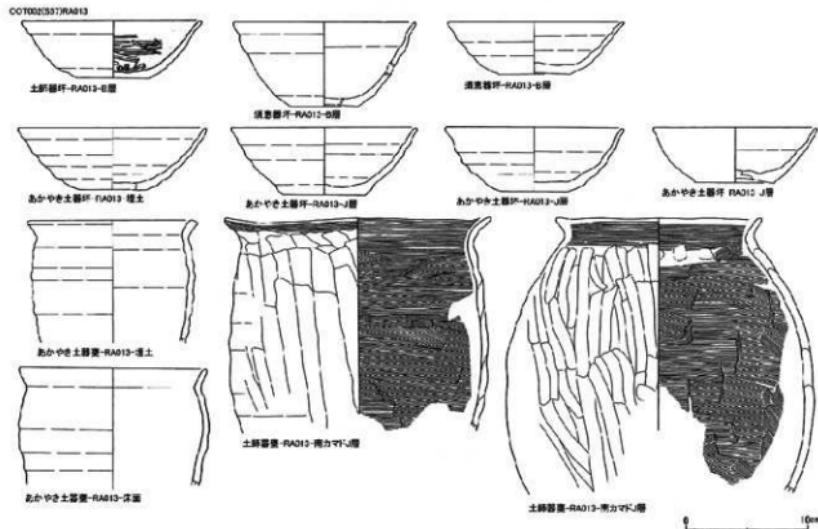
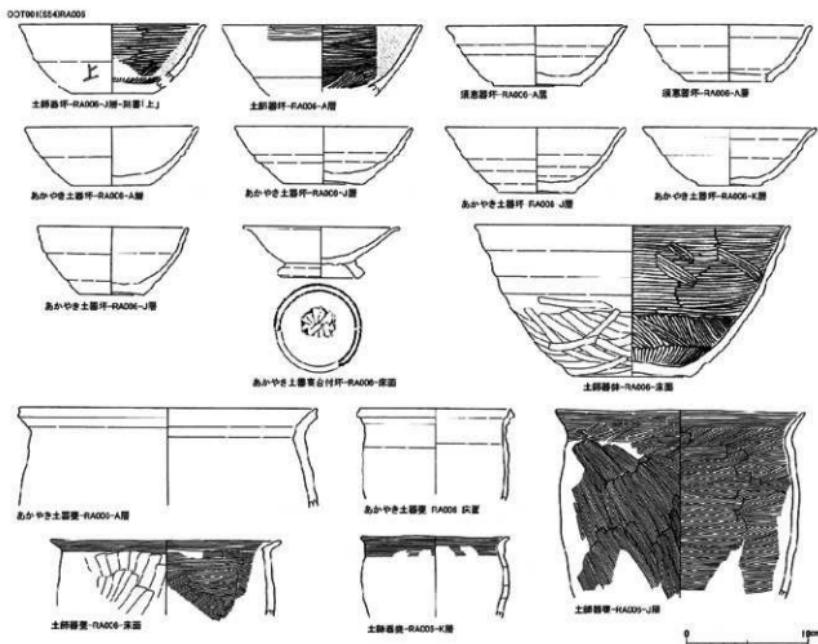
第 25 図 館遺跡第 1 次(S54)RA003・第 2 次 RA012 竪穴建物跡[9世紀前葉]



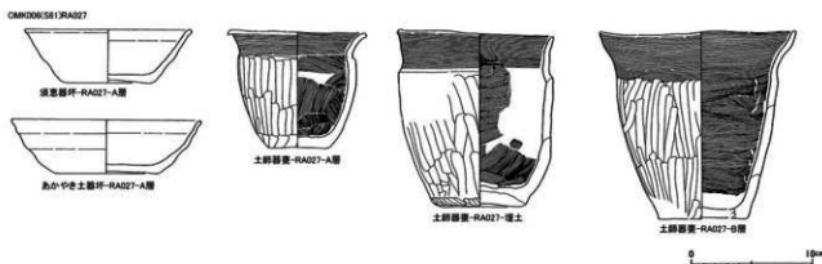
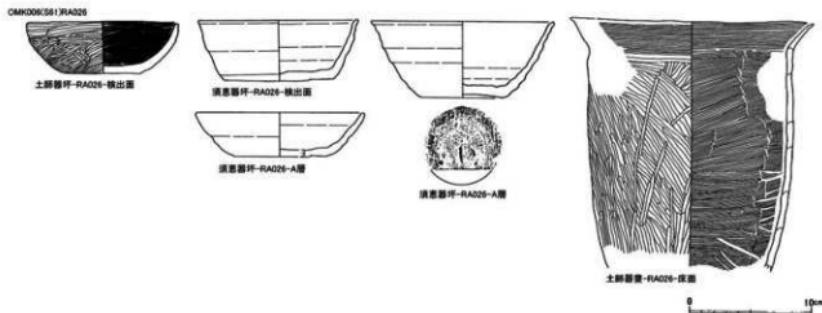
第 26 図 館遺跡 1 次(S54)RA004・009 積穴建物跡[9世紀前葉]



第27図 館遺跡第1次(S54)RA005 積穴建物跡[9世紀前葉]

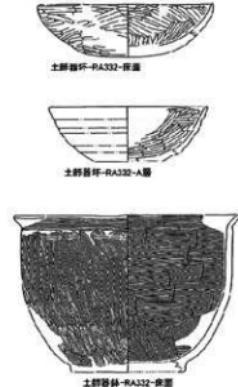


第 28 図 館遺跡第 1 次(S54)RA006・第 2 次(S57)RA013 壇穴建物跡[9世紀前葉]

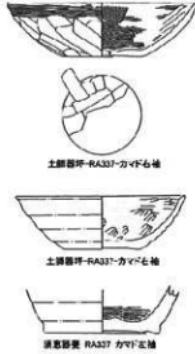


第29図 松ノ木遺跡第6次(S61)RA026・027 竪穴建物跡[9世紀前葉]

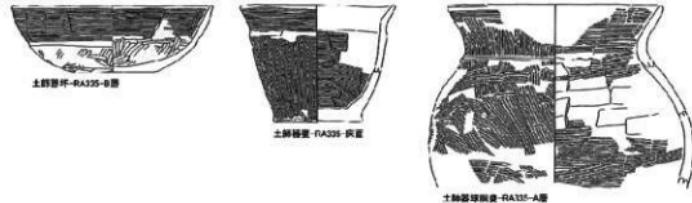
OOT025(H1)RA332



OOT025(H1)RA337



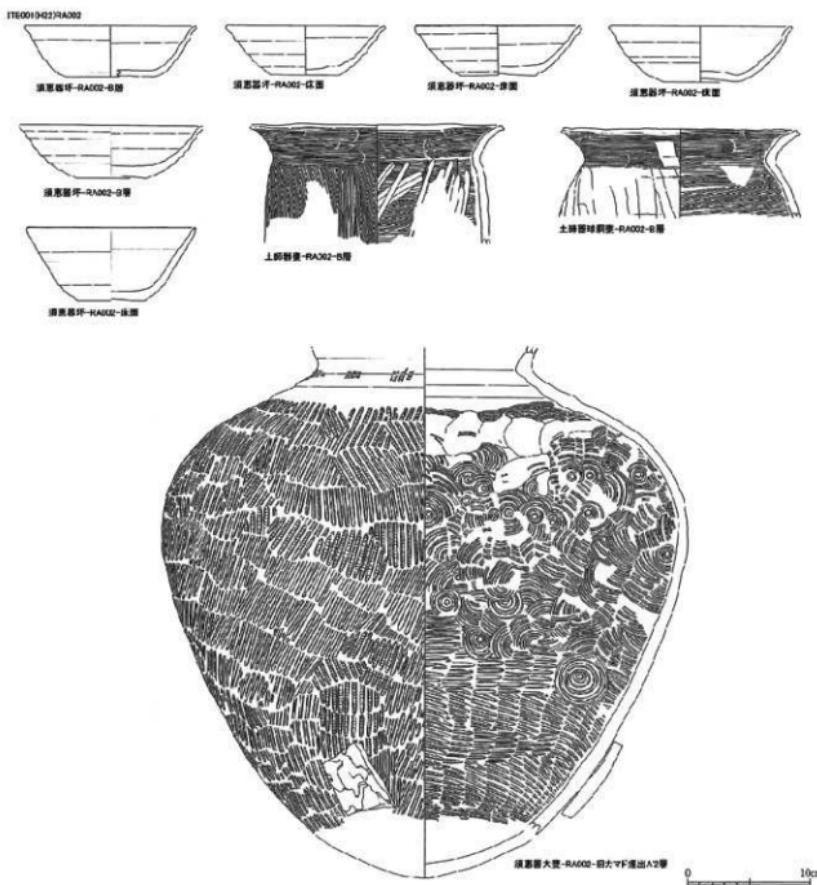
OOT025(H1)RA335



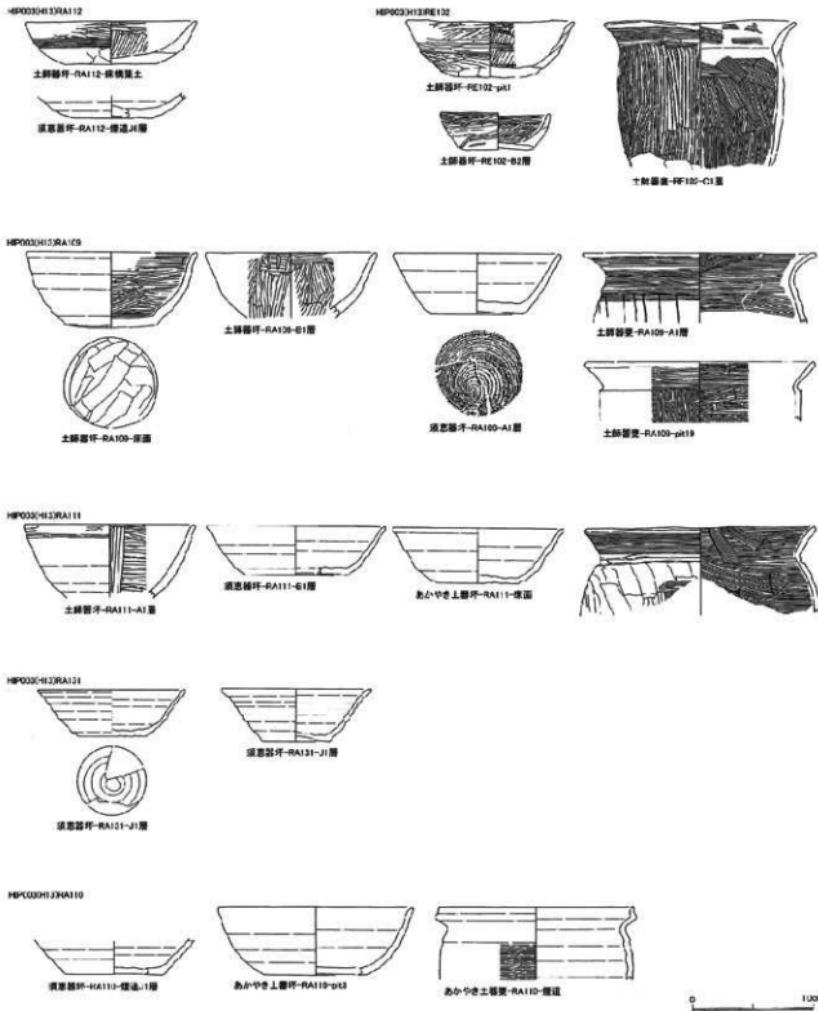
OOT025(H1)RA341



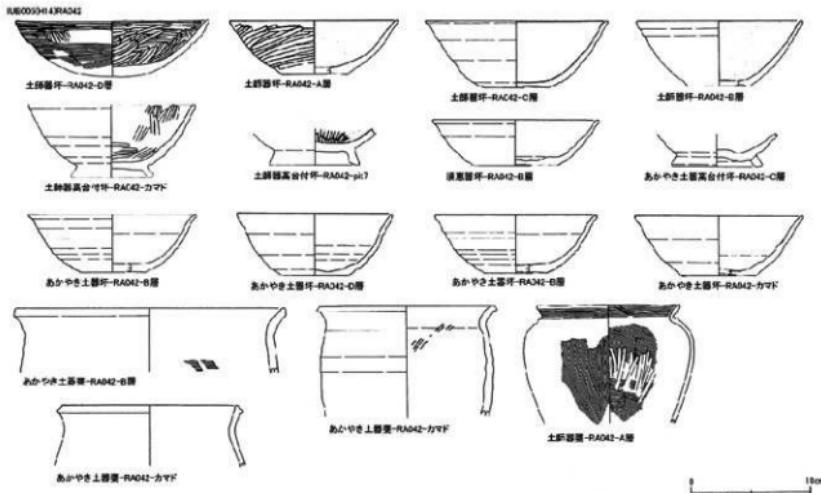
第30図 台太郎遺跡第25次(H1)RA332・337・335・341 竪穴建物跡[9世紀前葉]



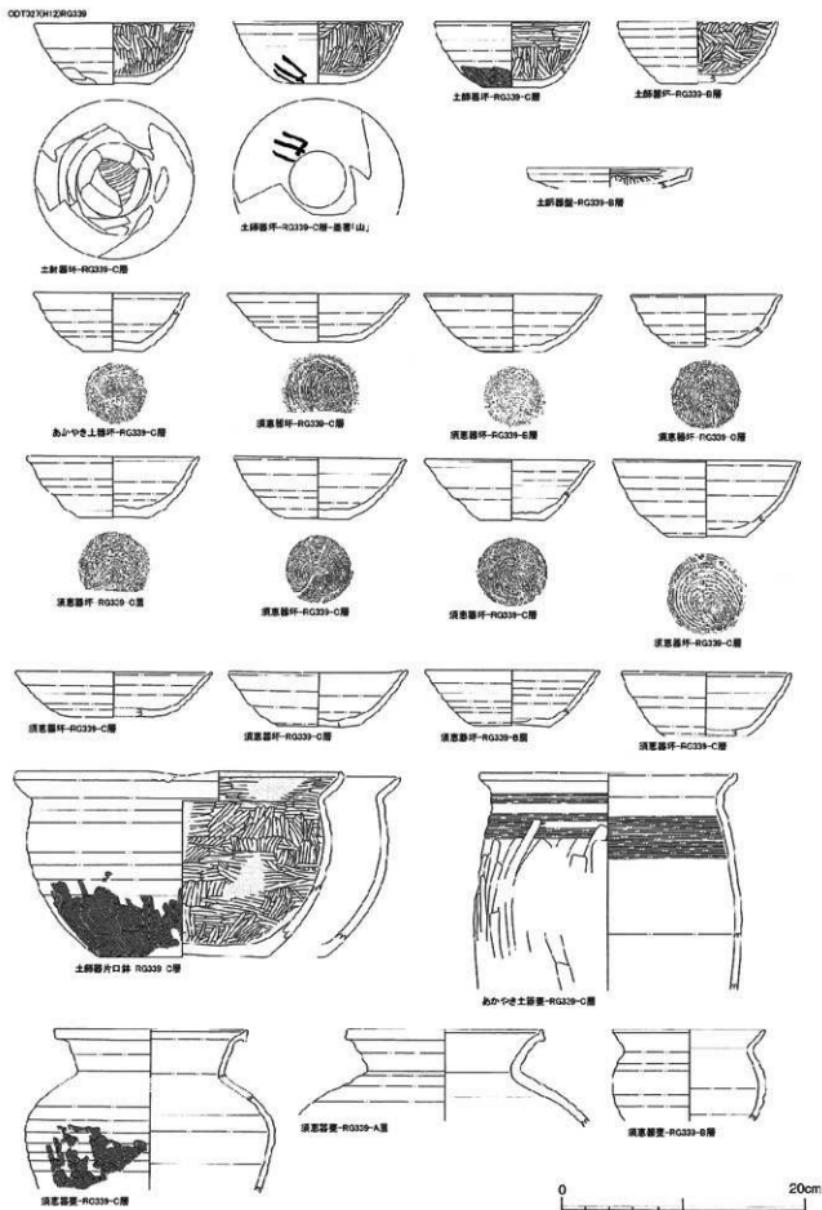
第31図 館野前遺跡第1次(H22)RA002 積穴建物跡[9世紀前葉]



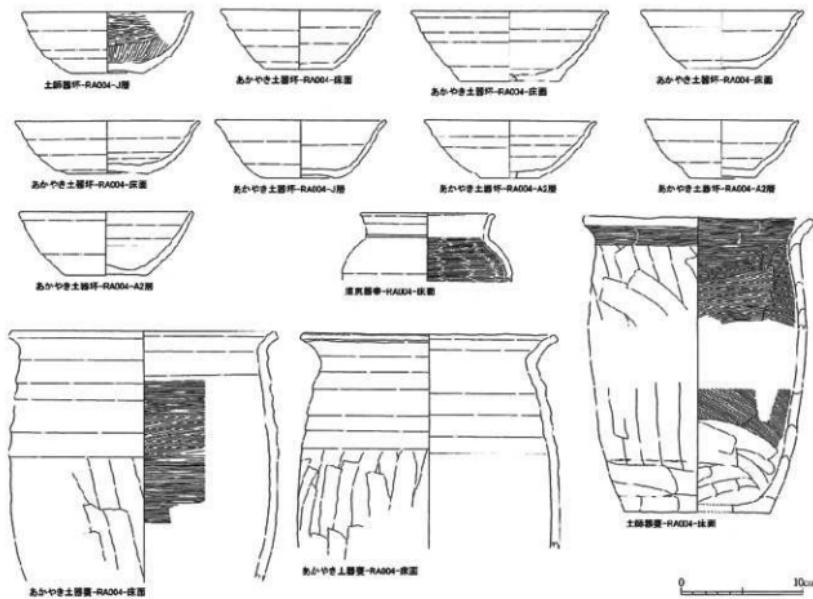
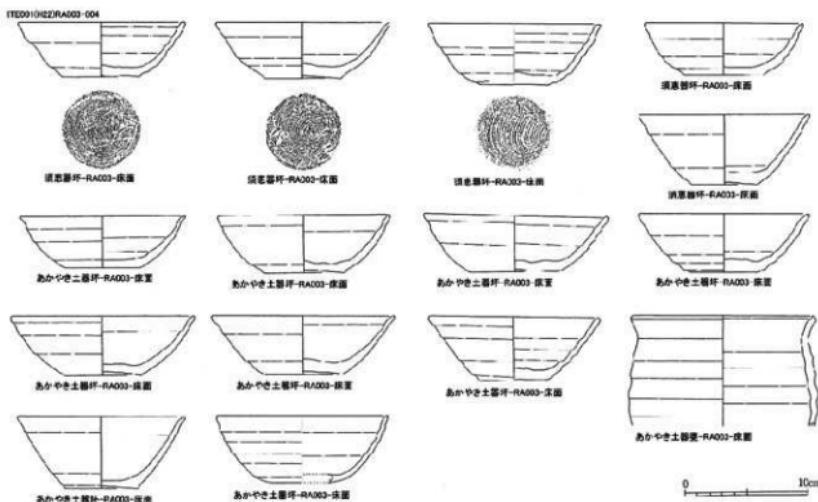
第32図 一本松遺跡第3次(H13)RA112・109・111・131・110 竪穴住居跡、RE102 竪穴状遺構
[9世紀前葉]



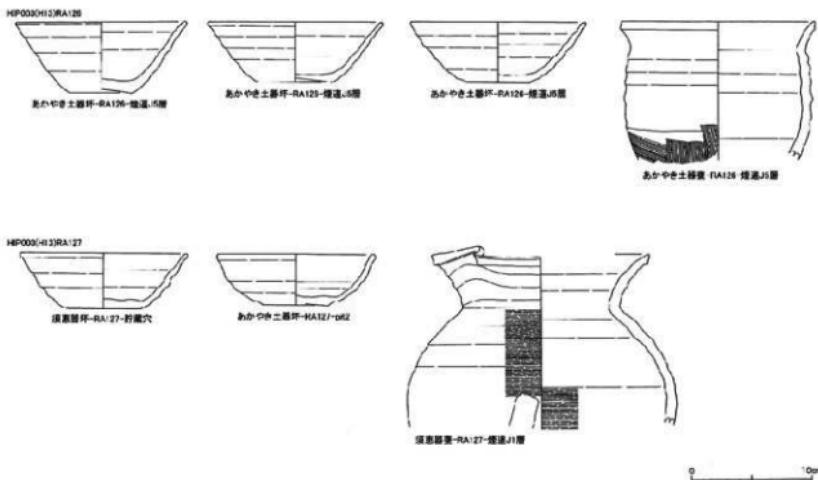
第33図 上畠遺跡第5次(H14)RA042 竪穴住居跡[9世紀前葉]



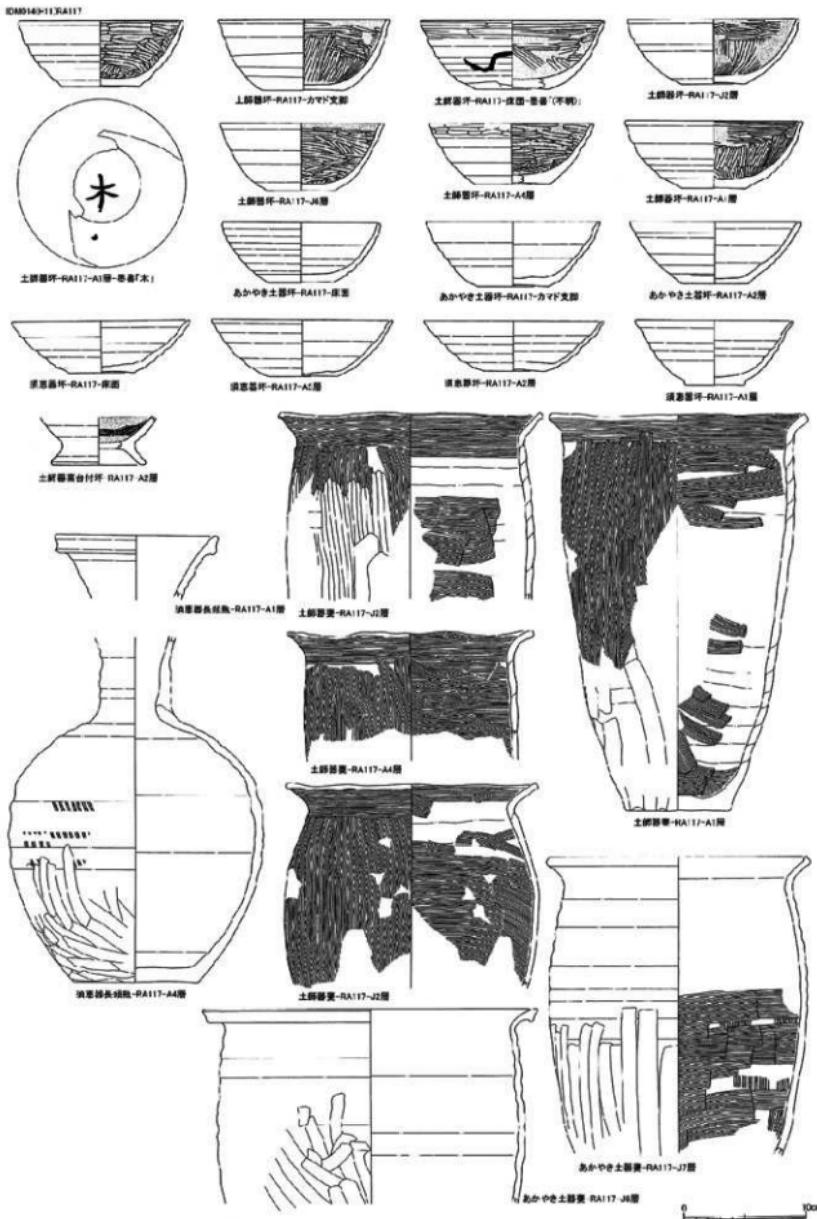
第34図 台太郎遺跡第27次(H12)RG339溝跡[9世紀中葉]



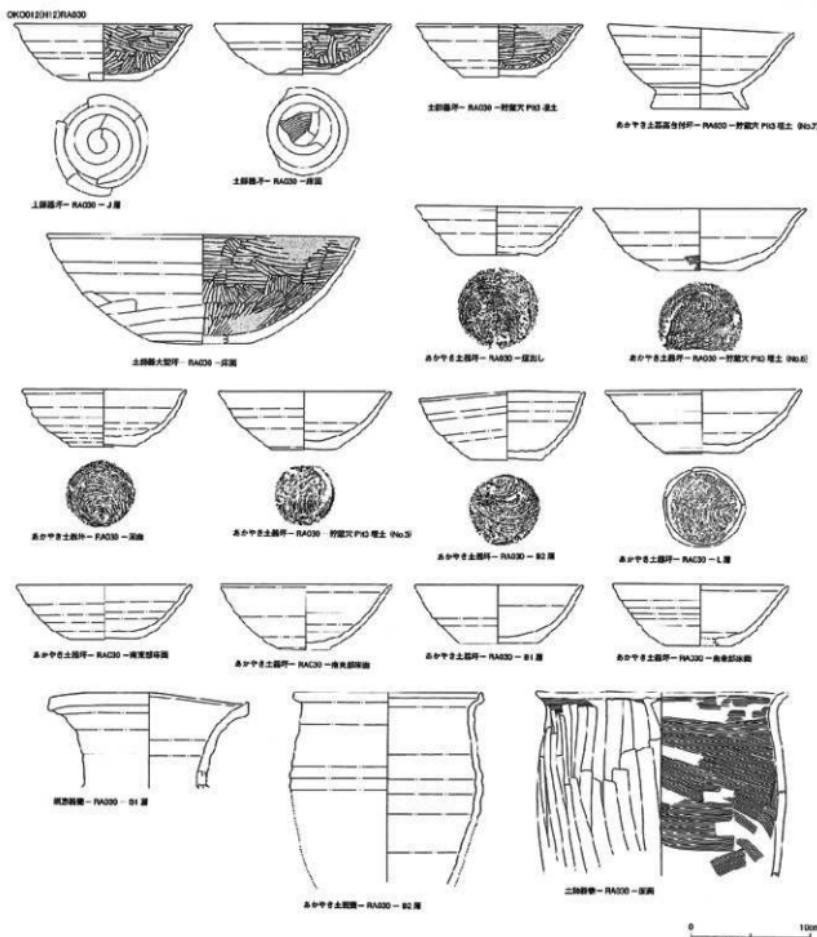
第35図 館野前遺跡第1次(H22)RA003-004 竪穴建物跡[9世紀中葉]



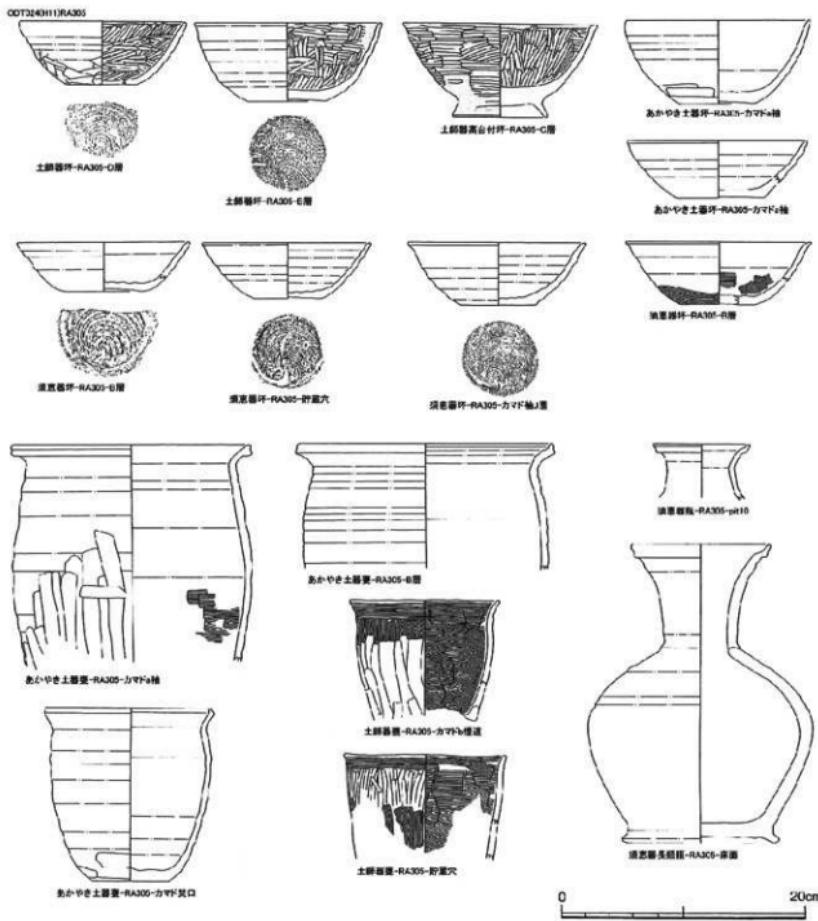
第36図 一本松遺跡第3次(H13)RA126・127 縦穴建物跡[9世紀中葉]



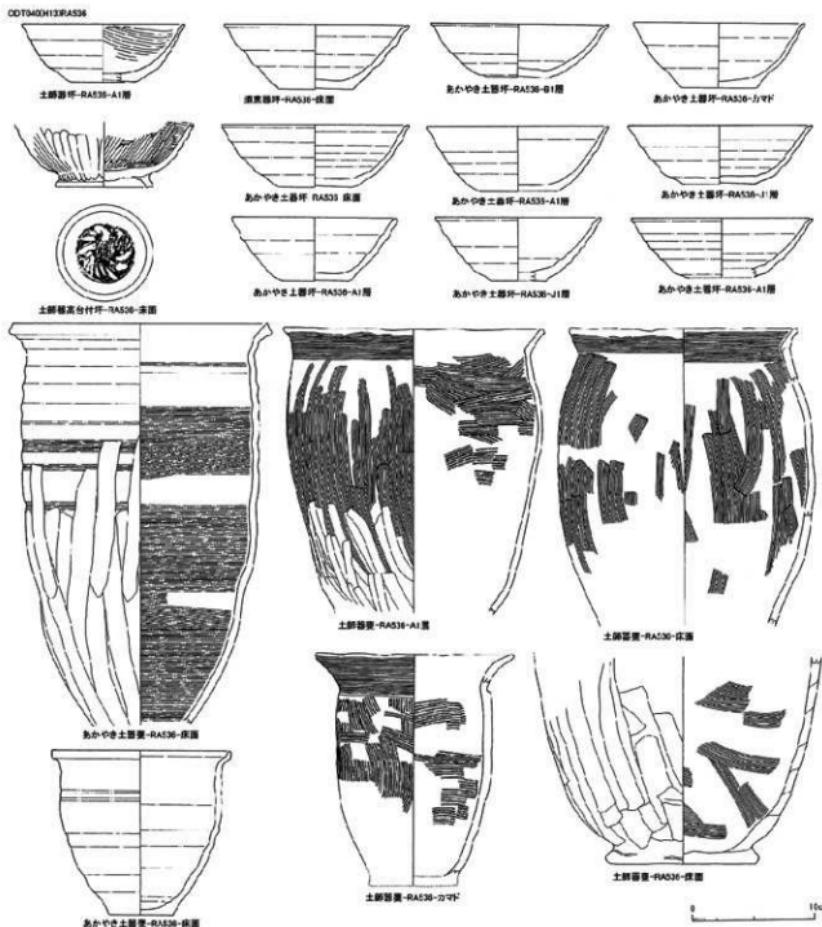
第37図 百目木遺跡第14次(H11)RA117 竪穴建物跡[9世紀中葉]



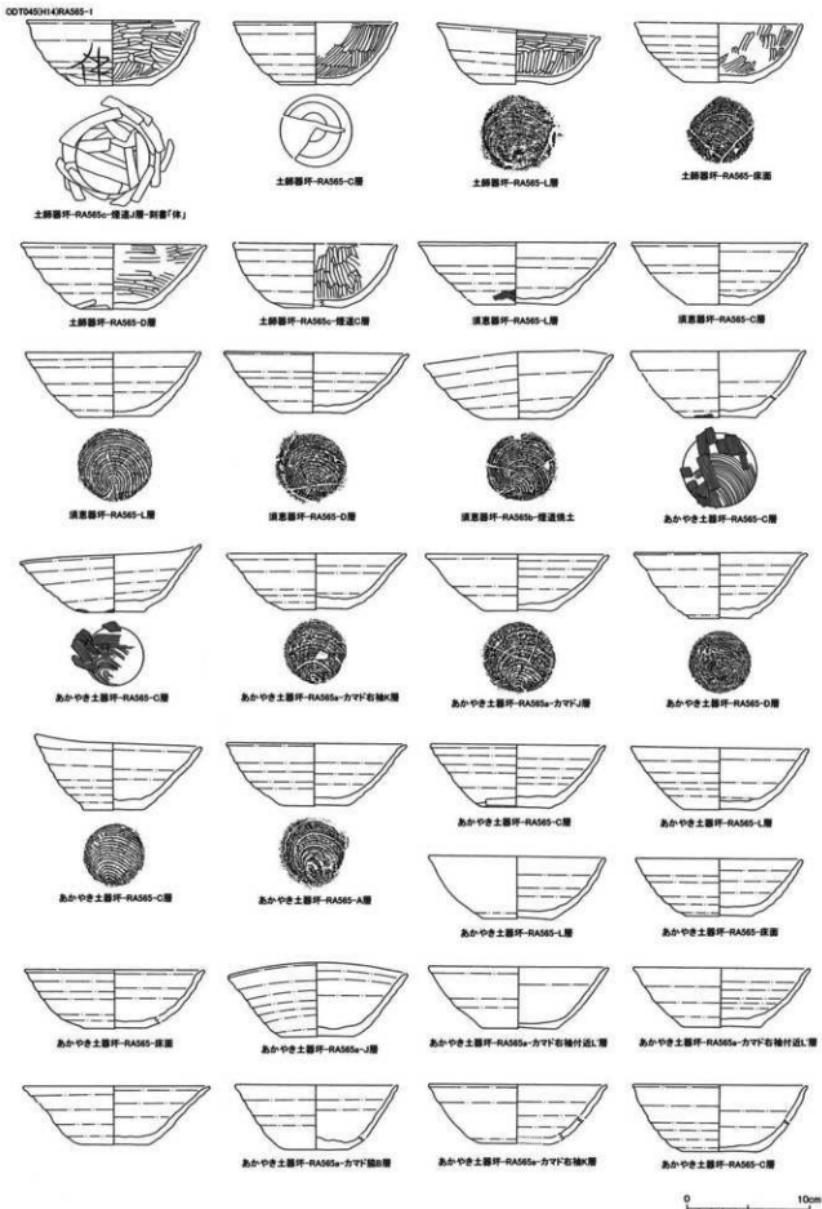
第38図 本宮熊堂B遺跡第12次(H12)RA030 穫穴建物跡[9世紀後葉]



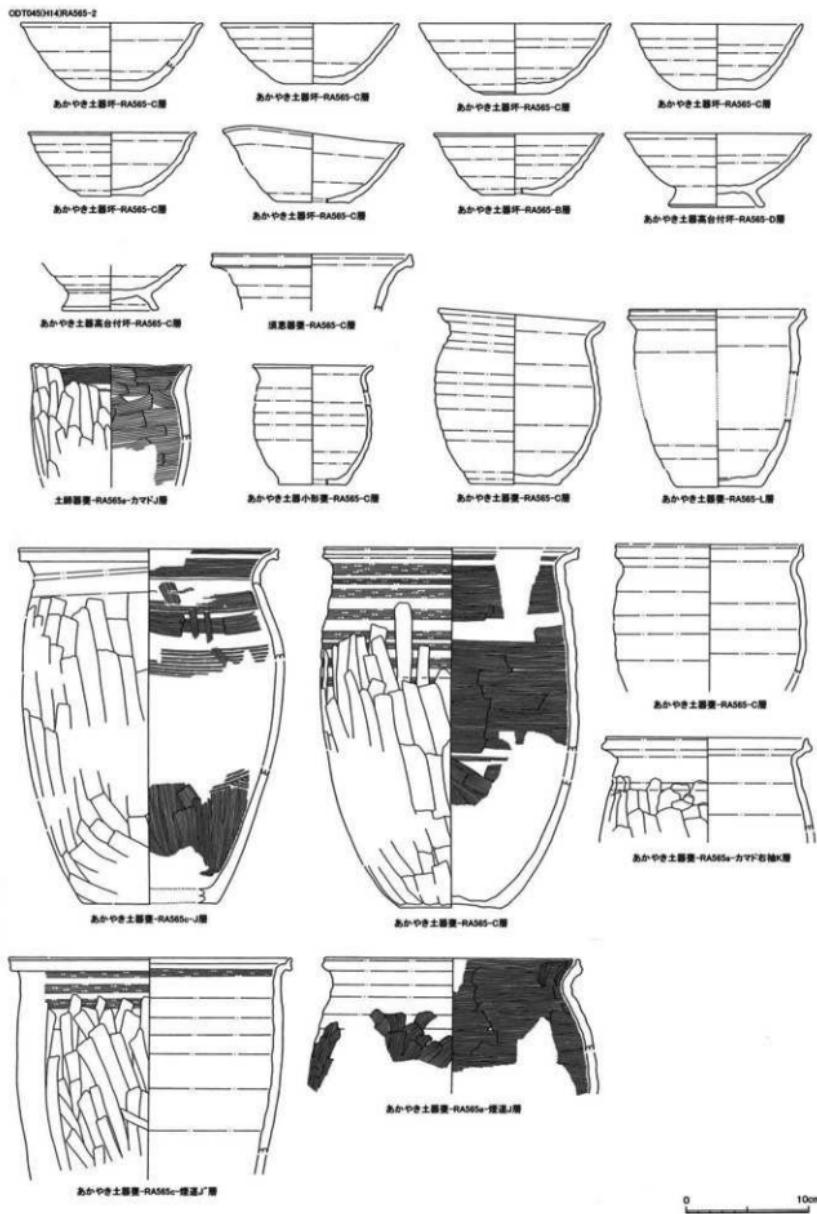
第39図 台太郎遺跡第24次(H11)RA305 竪穴建物跡[9世紀後葉]



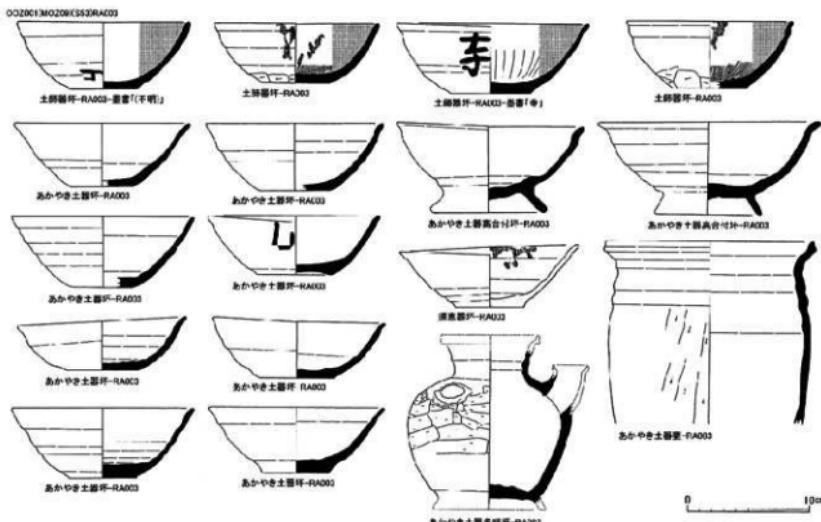
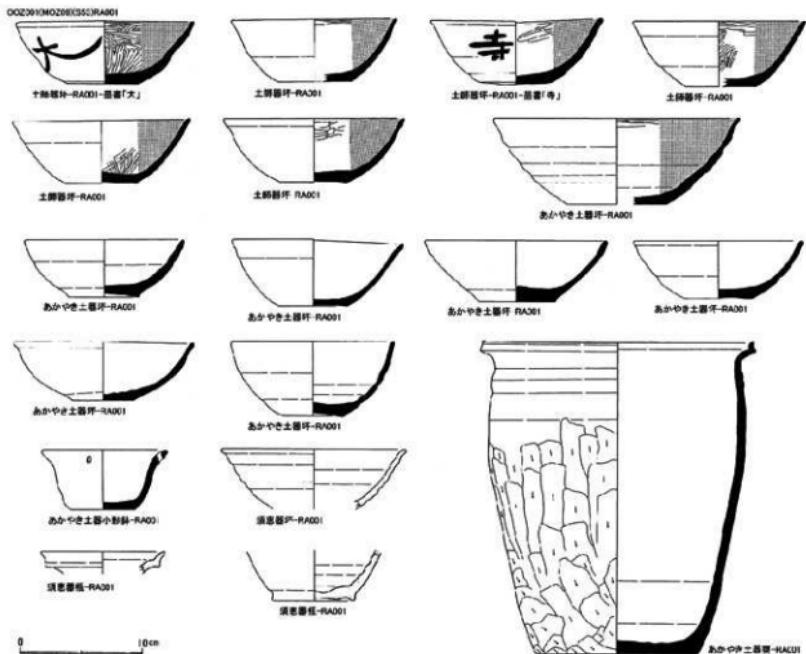
第40図 台太郎遺跡第40次(H13)RA536 積穴建物跡[9世紀後葉]



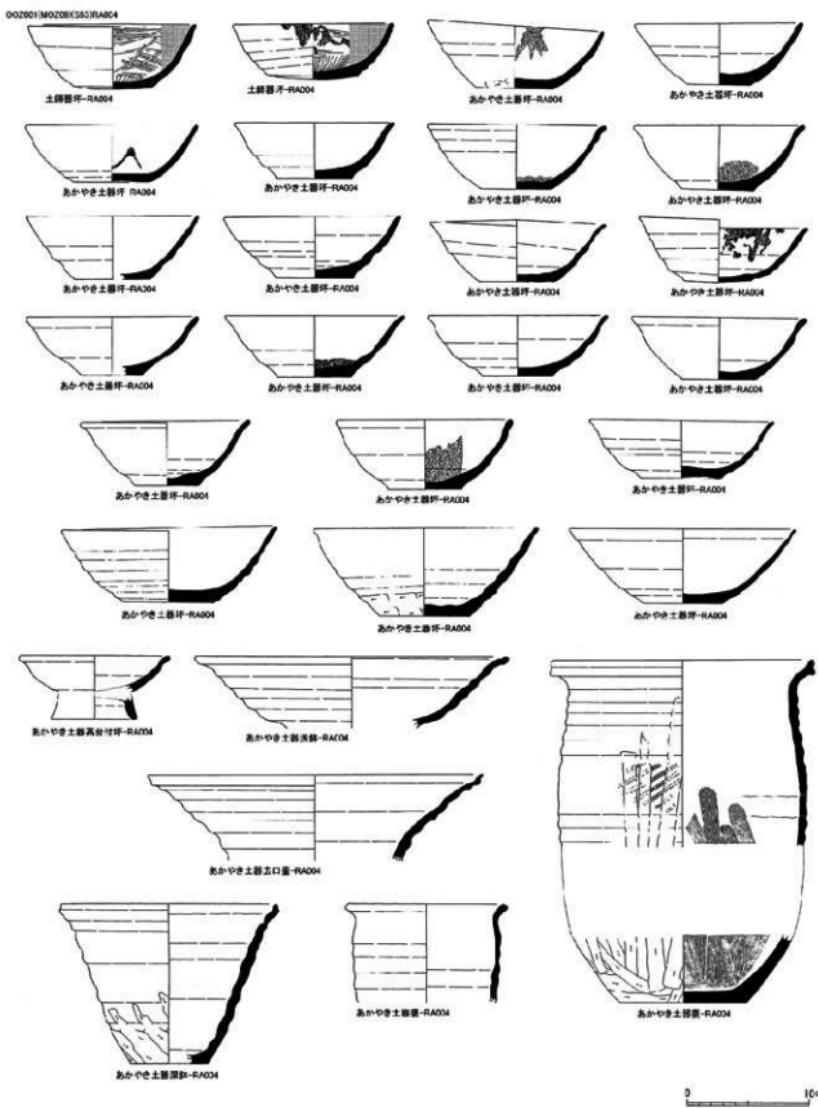
第 41 図 台太郎遺跡第 45 次(H14)RA565 積穴建物跡①[9世紀後葉]



第42図 台太郎遺跡第45次(H14)RA565 積穴建物跡②[9世紀後葉]

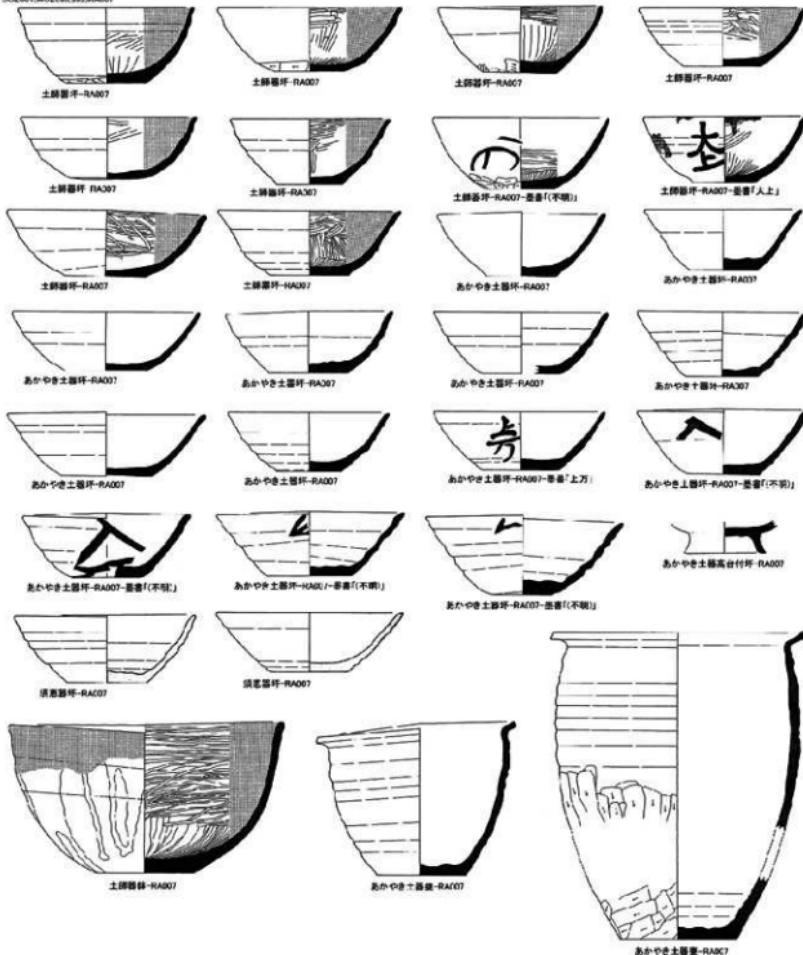


第43図 林崎遺跡第1次(S53)RA001・003 積穴建物跡[10世紀前葉]



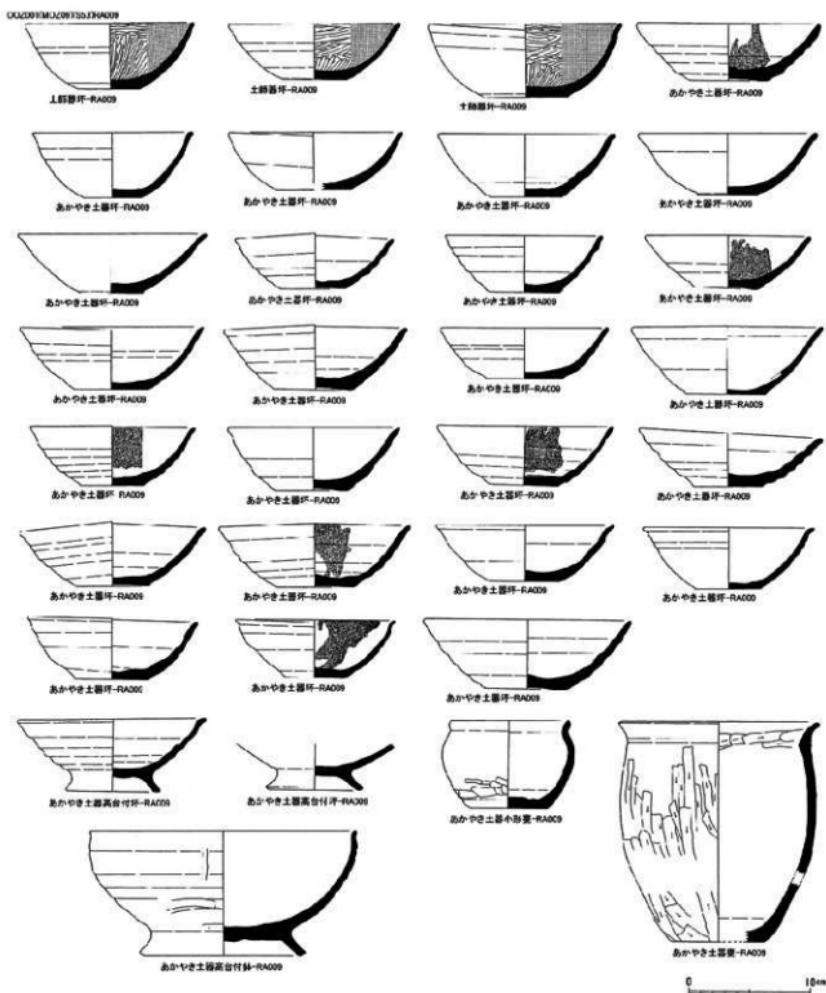
第44図 林崎遺跡第1次(S53)RA004 竪穴建物跡[10世紀前葉]

002961/M02/6(S53)RA007

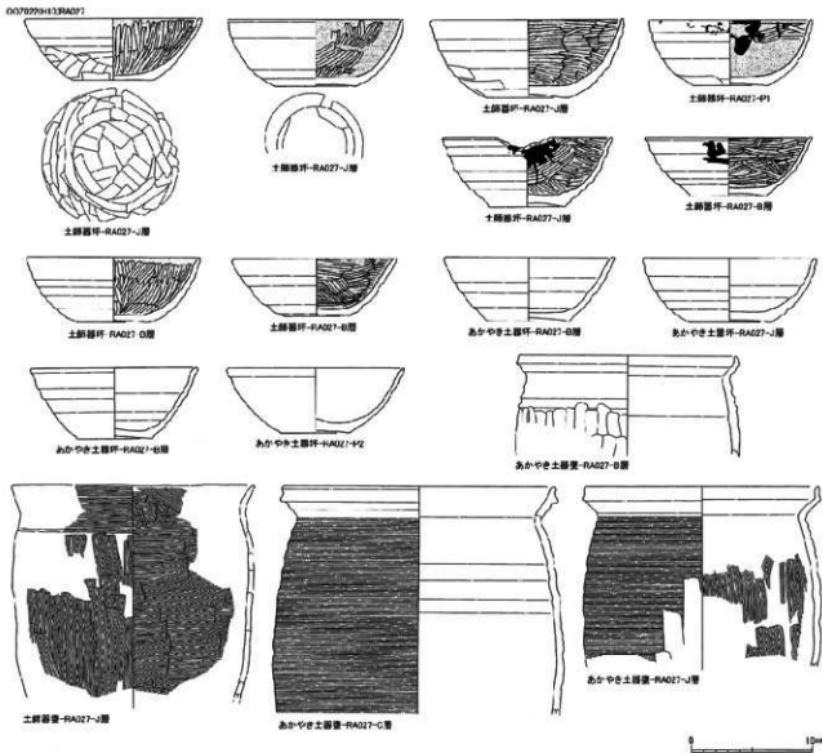


第 45 図 林崎遺跡第 1 次(S53)RA007 竪穴建物跡[10 世紀前葉]

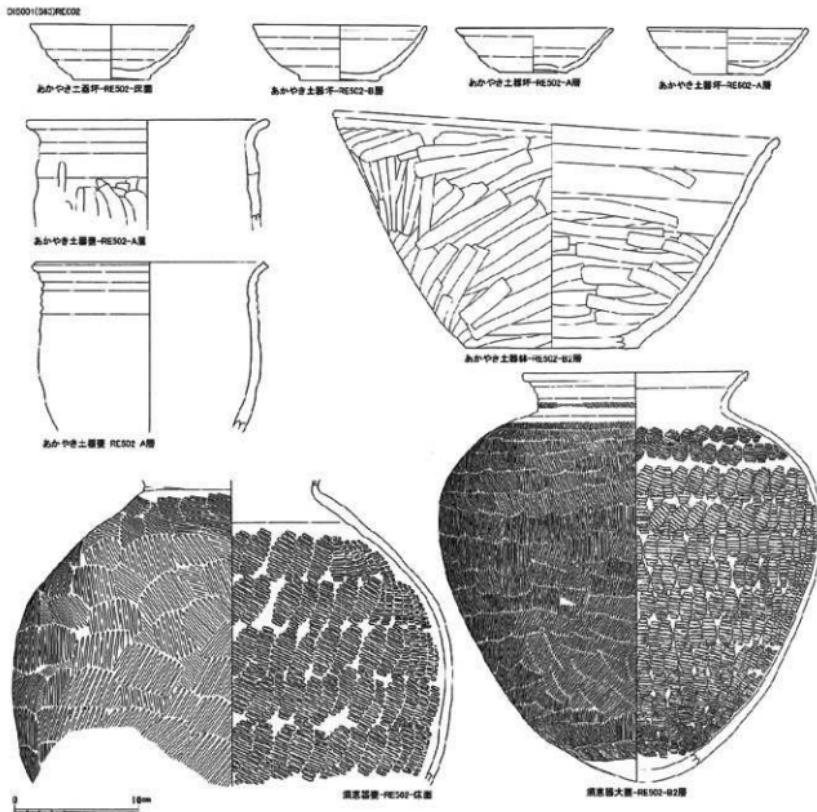
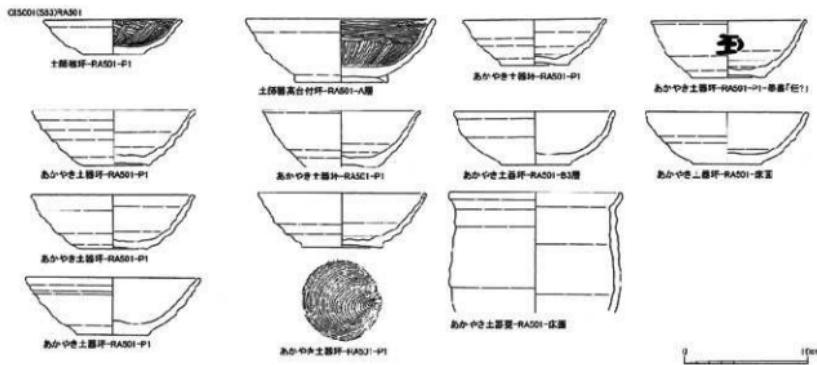
0 10cm



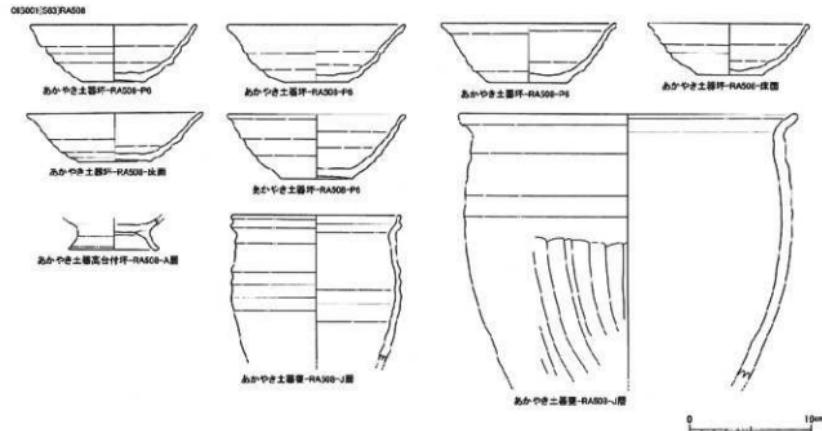
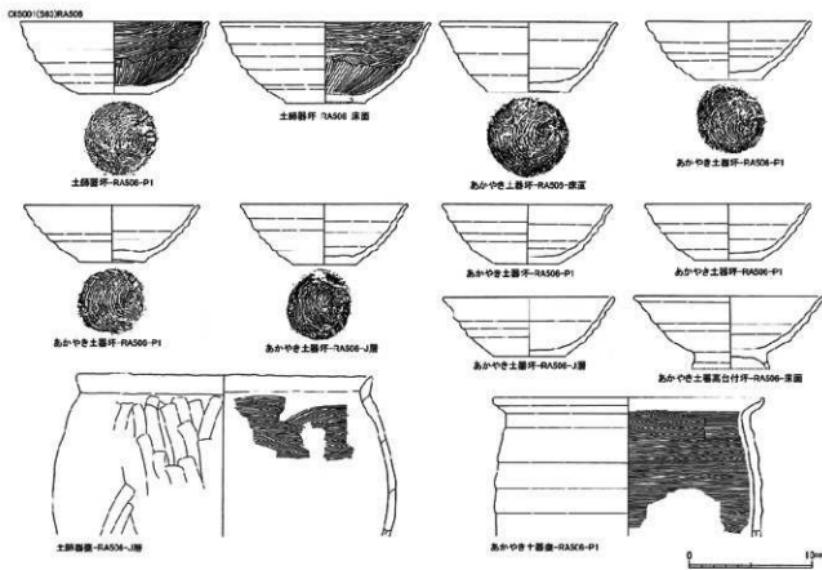
第46図 林崎遺跡第1次(S53)RA009 竪穴建物跡[10世紀前葉]



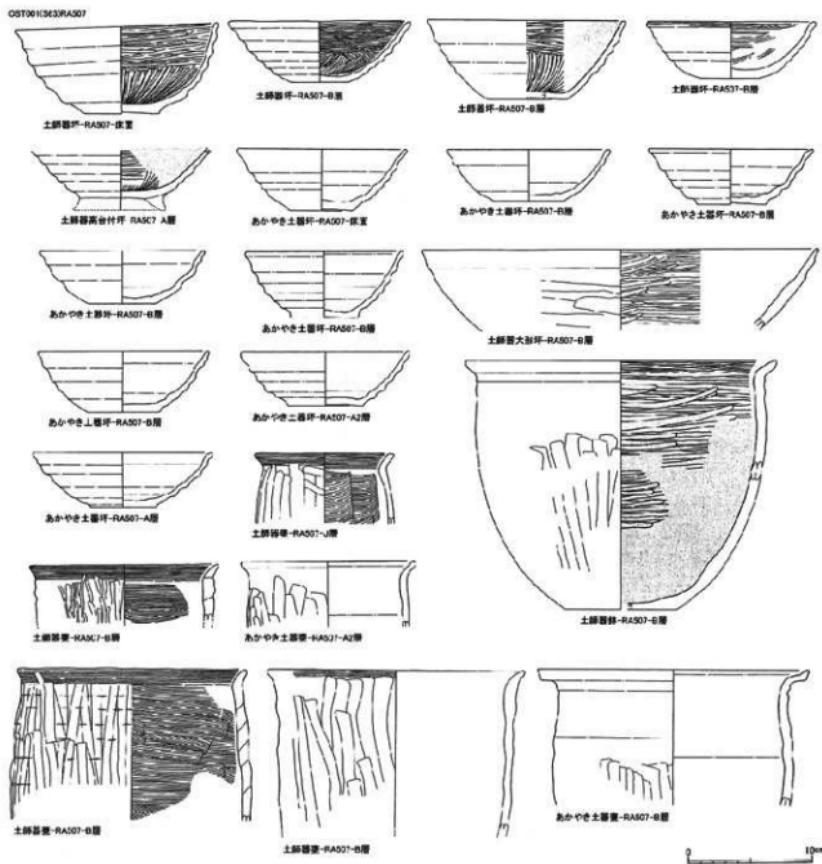
第47図 林崎遺跡第22次(H10)RA027 積穴建物跡[10世紀前葉]



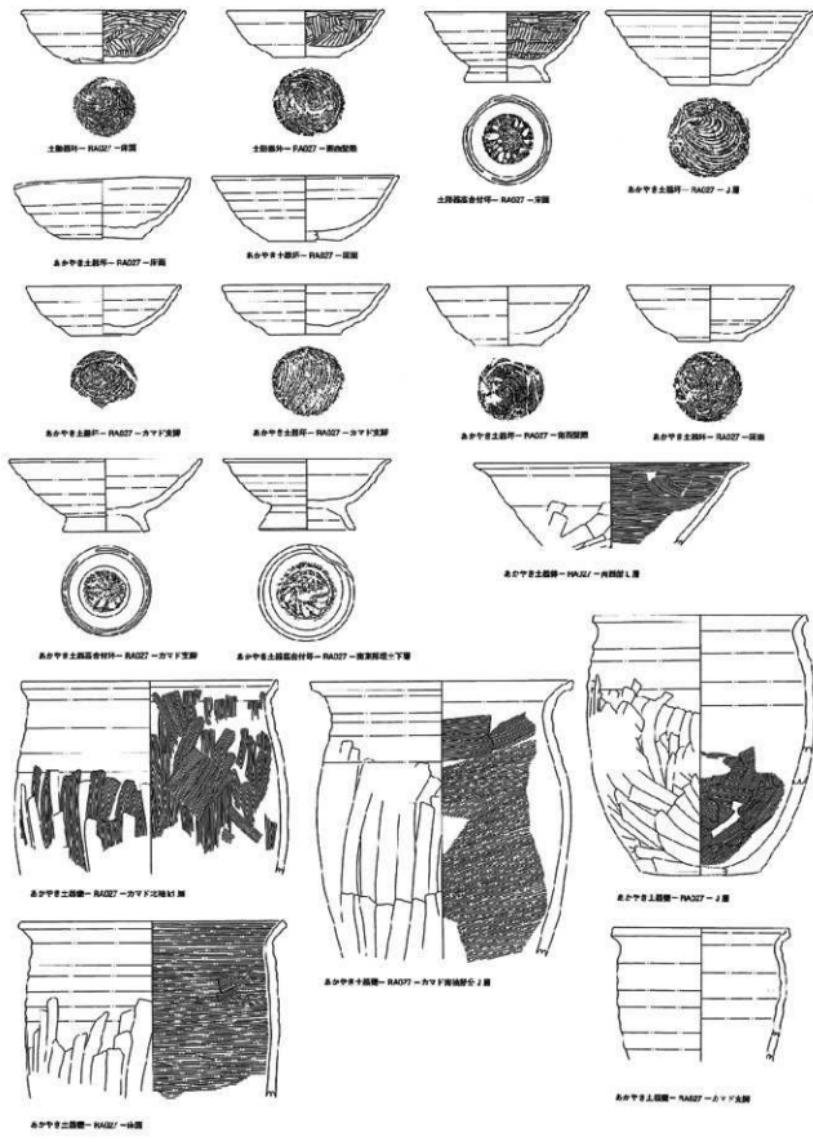
第48図 猪去館遺跡第1次(S63)RA501 竪穴建物跡・RA502 竪穴跡[10世紀前葉]



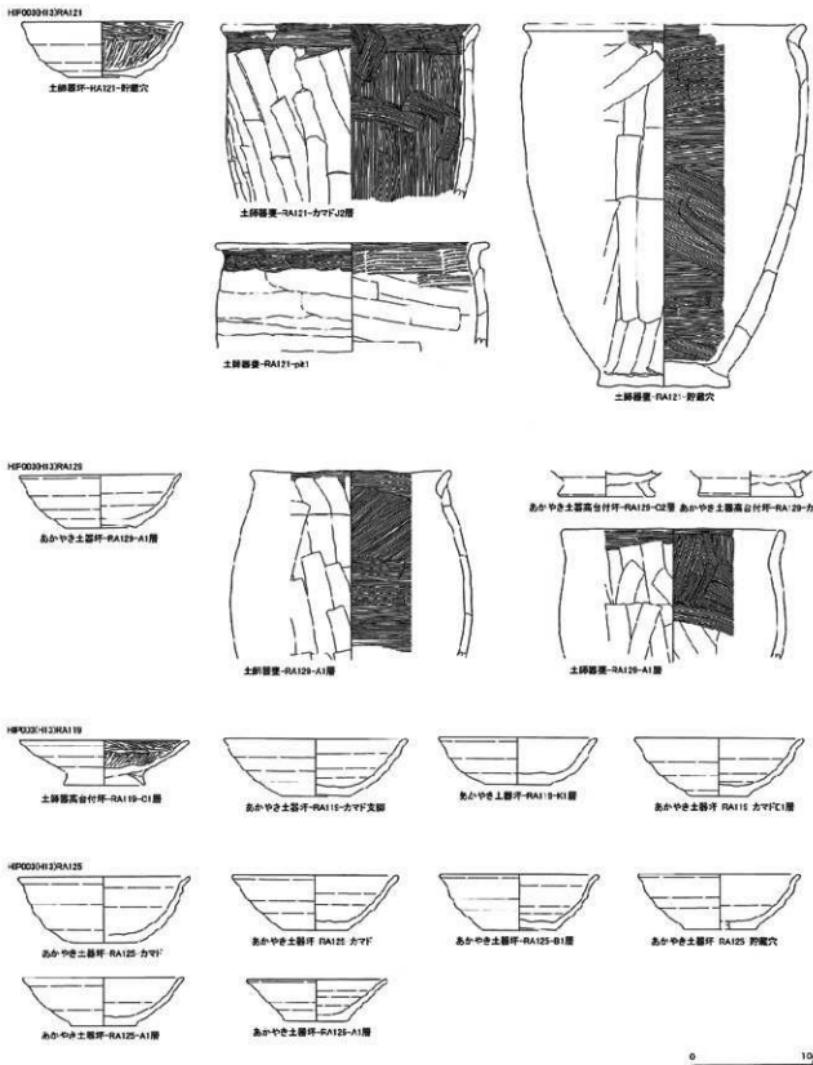
第49図 猪去館遺跡第1次(S63)RA506・508 竪穴建物跡(10世紀前葉)



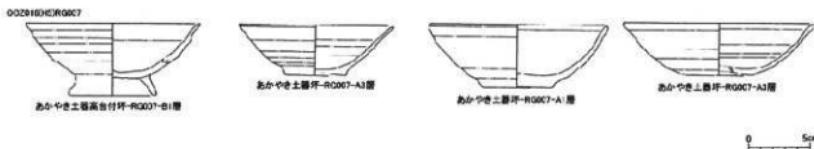
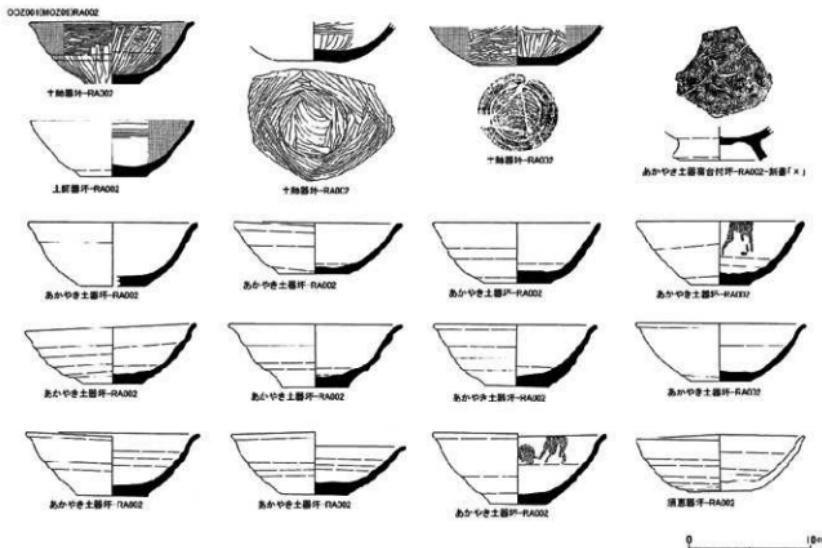
第 50 図 猪去館遺跡第 1 次(S63)RA507 穫穴建物跡[10世紀前葉]



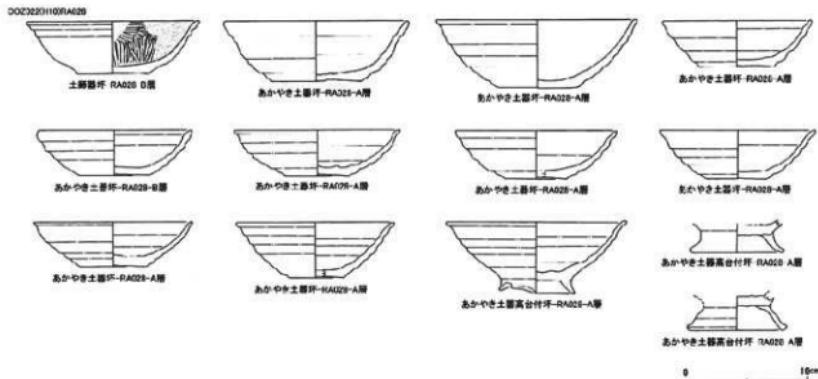
第51図 本宮熊堂B遺跡第12次(H12)RA027堅穴建物跡[10世紀前葉]



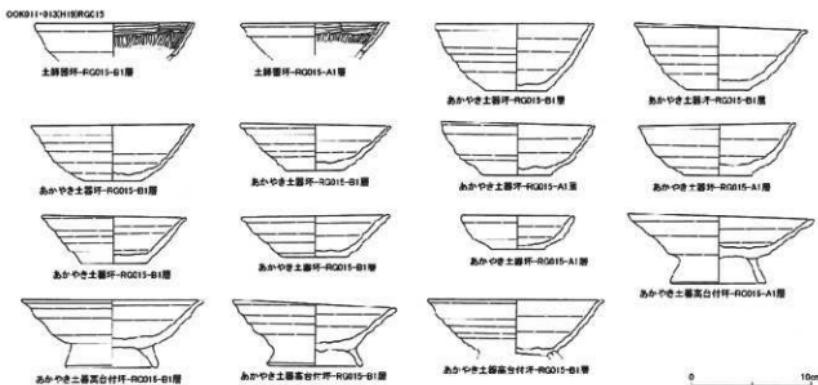
第 52 図 一本松遺跡第 3 次(H13)RA121・129・119・125 軽窓穴建物跡[10世紀前葉]



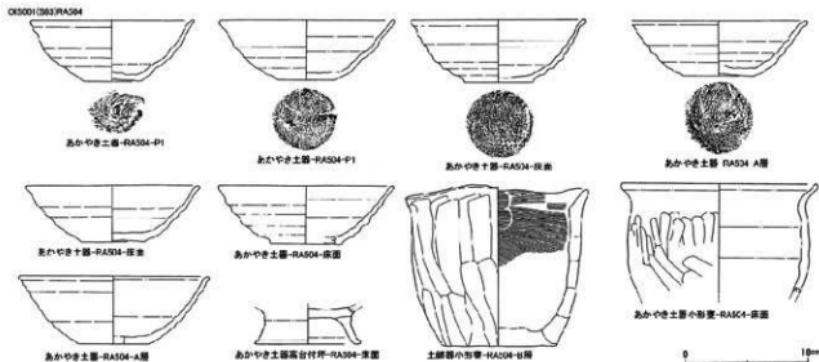
第 53 図 林崎遺跡第 1 次(S53)RA002 竪穴建物跡、第 16 次(H5)RG007 大溝跡[10 世紀中葉]



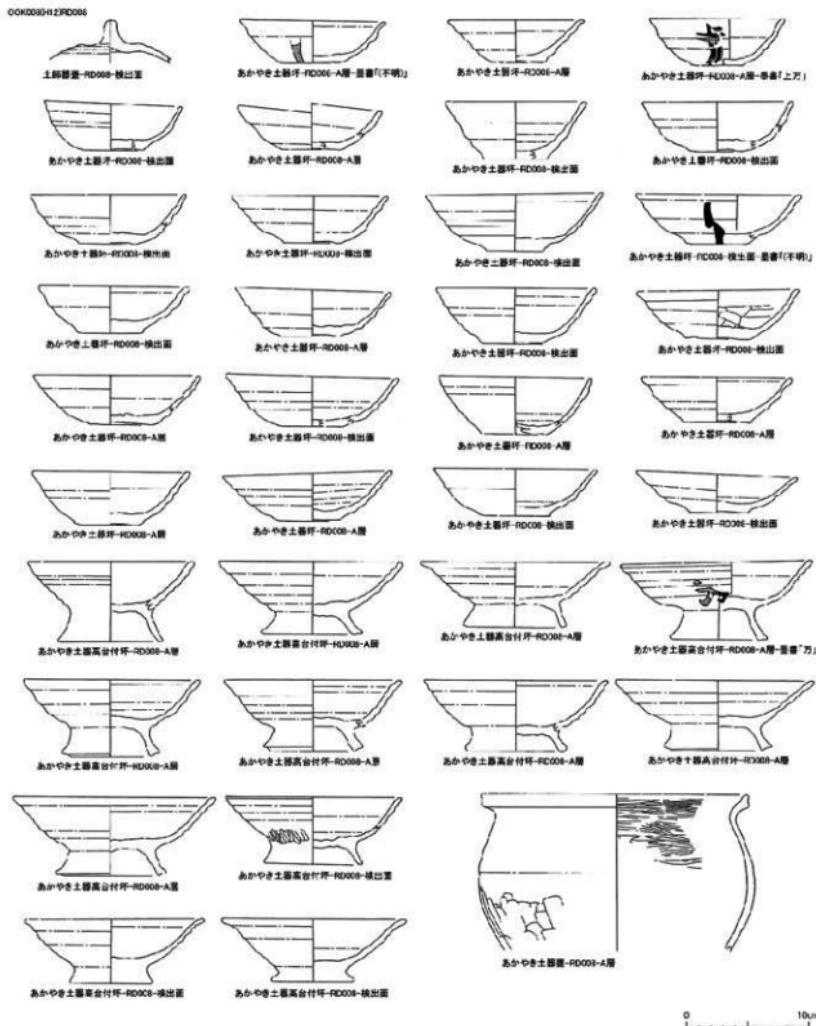
第 54 図 林崎遺跡第 22 次 RA028 穫穴建物跡[10 世紀中葉]



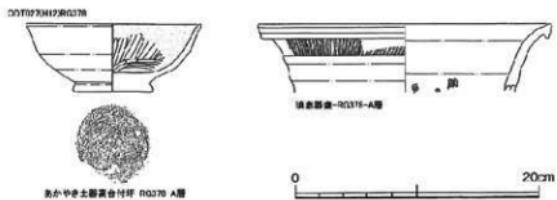
第 55 図 大宮北遺跡第 11・13 次(H19)RG015 溝跡[10 世紀中葉]



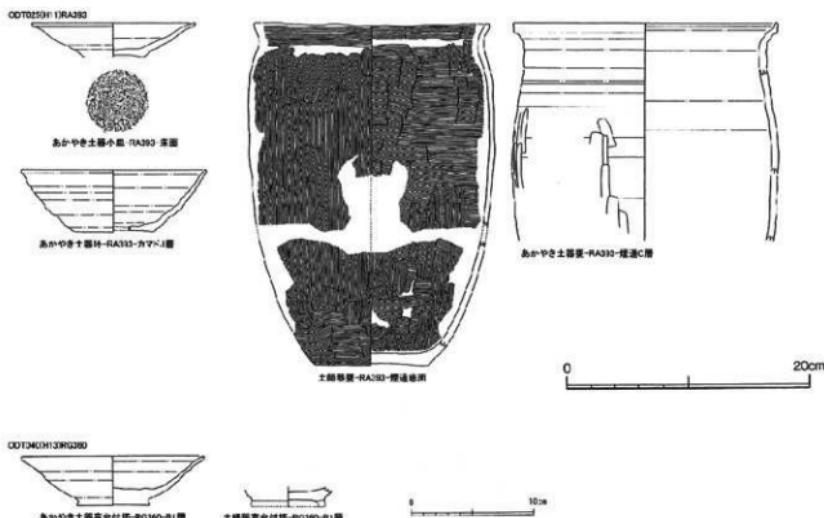
第 56 図 猪去館遺跡第 1 次(S63)RA504 壇穴建物跡〔10 世紀中葉〕



第 57 図 大宮北遺跡第 8 次(H12)RD008 土坑[10 世紀後葉]



第 58 図 台太郎遺跡第 27 次(H12)RG378 溝跡[10 世紀後葉]



第 59 図 台太郎遺跡第 25 次(H11)RA393 竪穴住居跡・第 40 次(H13)RG360 溝跡[11 世紀]

古代「斯波(志波)」都北部（志波城跡、太田地区、幡岡地区）の土器群変遷試験 【2013年版】

年代	黒陶 在地相夷系一般集落 「村」	黒陶 在地相夷系特殊集落 「度(新夷有力者)」	黒陶 律令国家系計画集落 「半民半官」	城壁官街「志波城」 外郭(兵舍域) 「官(半民的)」	郭内工房域 「官(半民的)」	「造志波城所」閑連(工房) 「官(半民的)」	政府域 「官」
相夷系（大化改新） 7世紀前半	竹林11次RA027整穴						
I (壬申の乱) 7世纪後半	台太郎25次RA045整穴						
I (多賀城造営) 8世纪前半	台太郎27次RA040整穴						
I (伊治城・桃生城造営) 8世纪中葉	台太郎55次RA613整穴 西垂溝20.21次RA040整穴						
相夷朝征伐期 8世纪後半		台太郎25次RA381.373整穴 台太郎27次RA492整穴 台太郎41次RA542整穴 台太郎46次RA578整穴 高橋A2次RA005. 009. 012整穴 高橋A3次RA009整穴 高橋A5次RA033整穴					
志波城・桂丹城統治期 9世纪前半	台太郎25次RA332. 337整穴 台太郎25次RA335. 341整穴 台太郎27次RA491整穴 柳野前1次RA002整穴 一本松1次RA112. 116. 111整穴 一本松3次RA131. 110. 102整穴 上総5次RA042整穴		板×木6次RA026. 027整穴 高橋A2次RA015整穴 高橋A3次RA020整穴 高橋A5次RA031整穴 百日本14次RA116整穴 西垂溝21次RA041整穴			36次S1426整穴〔B03〕 38次S1428. 430整穴〔B03〕 97次S1459整穴〔B03〕 34次S1425整穴〔B03〕 102次S1460整穴〔B03〕 92次S1458整穴〔B03〕	85次SD515政府南辺堀地内溝〔B03-811〕 37次SB580政府西脇殿抜取穴〔B12〕
相模城広域統治期 9世纪中葉	台太郎27次RA0339溝 百日本14次RA117整穴 一本松3次RA126. 127整穴 柳野前1次RA003. 004整穴						
I (陸奥国で貞観大地震) (出羽国で元慶の乱) 9世纪後半	本宮熊野12次RA040整穴 台太郎24次RA035整穴 台太郎40次RA036整穴 台太郎45次RA056整穴						
I (相夷系有力者新夷) (十和田火山大噴火) 10世纪前半	猪名越1次RA501. 002整穴 猪名越1次RA506. 508整穴 猪名越1次RA507整穴 本宮熊野12次RA042整穴 一本松3次RA121. 129整穴 一本松1次RA119. 125整穴		林崎1次RA001. 003整穴 林崎1次RA004整穴 林崎1次RA007整穴 林崎1次RA009整穴 林崎22次RA027整穴				
I (出羽国守囚反乱) 10世纪中葉	猪名越1次RA504整穴		大宮北11. 13次RA015溝 林崎1次RA002整穴 林崎22次RA028整穴 林崎16次RA007大溝				
奥州藤原氏支配期 10世纪後半	台太郎27次RA037溝	大宮北12次RA006土坑					
前九年・後三年合戦 11世纪	台太郎25次RA039整穴 台太郎40次RA060溝						
奥州藤原氏支配期 12世纪							
鎌倉政権開始 12世纪							